

棟高村北遺跡

— 宅地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 —

むな たか むら きた
棟 高 村 北 遺 跡

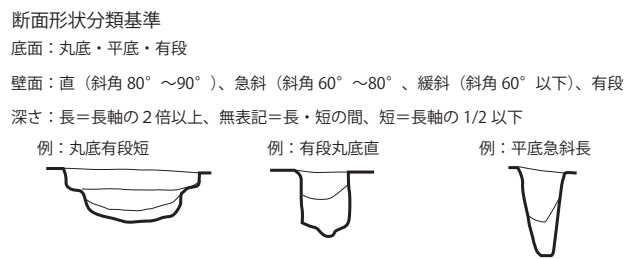
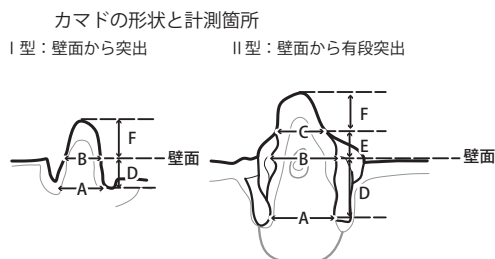
2 0 1 8

例 言

1. 発掘調査は、宅地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 発掘調査から本書刊行に至るまでの経費は、志村宣重氏の負担によって行った。
3. 発掘調査及び整理作業は志村宣重氏より委託を受けた有限会社歴史考房まほらが、高崎市教育委員会文化財保護課の指導のもと実施した。
4. 発掘調査の事項は以下のとおりである。
 - ・遺跡名称：棟高村北遺跡（遺跡番号：711）
 - ・遺跡所在地：高崎市棟高町字村北 1928 番 55
 - ・調査面積：約 177㎡
 - ・発掘調査期間：平成 29 年 9 月 4 日～平成 29 年 10 月 25 日
 - ・整理作業期間：平成 29 年 10 月 26 日～平成 30 年 3 月 30 日
 - ・調査指導：矢島 浩（高崎市教育委員会文化財保護課）
 - ・調査担当者：山崎芳春（有限会社歴史考房まほら）
5. 発掘調査・整理作業に伴い、各作業を以下のとおり委託した。
 - ・基準点測量作業、遺構平面図の作成はタナカ設計に委託した。
6. 本書の編集作業は山崎芳春が行った。執筆は第 1 章が矢島浩、その他を山崎芳春が担当した。
7. 本調査で収集した資料及び出土遺物は一括して高崎市教育委員会が保管・管理している。
8. 発掘調査及び整理作業に従事された作業員は以下のとおりである。（敬称略、50 音順）
発掘調査：岡村美弥子・小坂橋進一郎・齋藤茂二・田村美知子・畠山孝四郎
整理作業：川島かおり・杉本めぐみ・堀江洋子・宮崎昌子
9. 本書作成にあたり多くの方々のご指導・ご協力をいただいた。記して感謝の意を表するものである。（敬称略、50 音順）
青木利文・倉石広太・外山政子・澤田福宏・三浦京子・有限会社セゾンホーム

凡 例

1. 本書に使用した地図は、国土地理院発行 1/200,000 地形図（縮尺は 1/30 万に変更）、国土地理院発行 1/25,000、高崎市都市計画図 1/2,500 を使用した。
2. 平面図の北方向は座標北方向を、水準線は標高を示す。平面図において使用した X・Y 座標は世界測地系 IX 系である。
3. 本書に掲載した遺構図、遺物実測図、遺物写真の縮尺は各図に記載した。
4. 土層・遺物の色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局・（財）日本色彩研究所監修『新版標準土式色帖』を使用した。
5. 土層注記の含有物は、観察者の目分量で包含量を以下のように表記した。
多（50% 以上）、中（50～25%）、少（25～5%）、微（5% 以下）
6. 遺構・遺物観察表の計測値の（ ）は復元値、〈 〉は残存値または確認値を表す。カマド・断面形状については凡例下に記した。
7. 掲載遺物番号は、図面・写真図版、観察表ともに統一してある。遺構図面中は、1（12）というように掲載遺物番号と（ ）付きで取り上げ番号を記した。接合資料は、同じ掲載遺物番号を付す、あるいは引き出し線を引いて示した。
8. 本報告書の本文、土層注記で使用した火山噴出物は、浅間 B 軽石：As-B（1108 年降下）、浅間 C 軽石：As-C（4 世紀初頭降下）。
9. As-B を含むⅡ層、As-C を含むⅢ層、植物の根痕は、次のトーンで示した。Ⅱ層：■、Ⅲ層：■、根痕：■
10. 断面図中の記号は、次のとおりである。土器：P、石器：S、番号（番号）：掲載遺物番号（取り上げ番号）
11. 遺構平面図、遺物実測図で使用したトーンは、図中に凡例を記した。
12. 重複関係については、不等記号を用いて「旧<新」で表現した。不明な場合は「≠」で表現した。
13. 遺構種別の略号は、高崎市教育委員会に従って以下のとおりである。
竪穴住居：SI、縄文遺物集中：SJ、土坑：SK、ピット：P



目 次

例言・凡例

第Ⅰ章 発掘調査に至る経緯	1
第Ⅱ章 遺跡の周辺環境	1
第1節 地理的環境	1
第2節 歴史的環境	1
第Ⅲ章 発掘調査の成果	3
第1節 試掘調査と本調査の経過	3
第2節 基本土層	4
第3節 検出された遺構と遺物	4
第1項 遺構	4
第2項 遺物	6
第Ⅳ章 まとめ	21
写真図版	

挿図目次

第1図 周辺自然環境図	1	第10図 遺構図 SI-5 カマド・SI-6 カマド	12
第2図 周辺遺跡分布図	2	第11図 遺構図 SI-7・SI-8	13
第3図 遺跡位置と調査範囲図	3	第12図 遺構図 SJ-1・SK-1・P-1～P-20	14
第4図 基本土層図	4	第13図 遺構図 SK-2～SK-8・P-21～P-31	15
第5図 調査区全体図	5	第14図 出土遺物図(1)	16
第6図 遺構図 SI-1・SI-2・SI-2 カマド	8	第15図 出土遺物図(2)	17
第7図 遺構図 SI-1 カマド・SI-3	9	第16図 出土遺物図(3)	18
第8図 遺構図 SI-4・SI-5・SI-6	10	第17図 本遺跡と三ツ寺Ⅱ遺跡との地割れ痕の比較	21
第9図 遺構図 SI-4・SI-5	11	第18図 周辺石材確認調査	22

挿表目次

第1表 周辺遺跡一覧表	2	第4表 土坑(SK)一覧表	14
第2表 発掘調査工程表	3	第5表 ピット(P)一覧表	14・15
第3表 竪穴建物(SI)・遺物集中部(SJ)一覧表	7	第6表 出土遺物観察表	19・20

挿写真目次

写真1 基本土層	4	写真6 SI-5 地割れ痕確認トレンチ	6
写真2 SI-1 カマド袖石確認状況	5	写真7 SI-4 地割れの影響確認	6
写真3 SI-3 カマド平面プラン確認状況	5	写真8 SI-5 地割れの影響確認	6
写真4 SI-5 カマド袖石確認状況	5	写真9 SI-5 床面に残る地割れの影響	22
写真5 遺構確認状況	5	写真10 遺跡出土大型台石とカマド袖石	22

写真図版目次

PL.1 調査区全景	PL.5 遺構調査(SI-7・SI-8・SJ-1)
PL.2 空撮・遺構調査(SI-1・SI-2)	PL.6 出土遺物(1) 1～19
PL.3 遺構調査(SI-2・SI-3・SI-4・SI-5)	PL.7 出土遺物(2) 20～37
PL.4 遺構調査(SI-5・SI-6)	PL.8 出土遺物(3) 38～57

第Ⅰ章 発掘調査に至る経緯

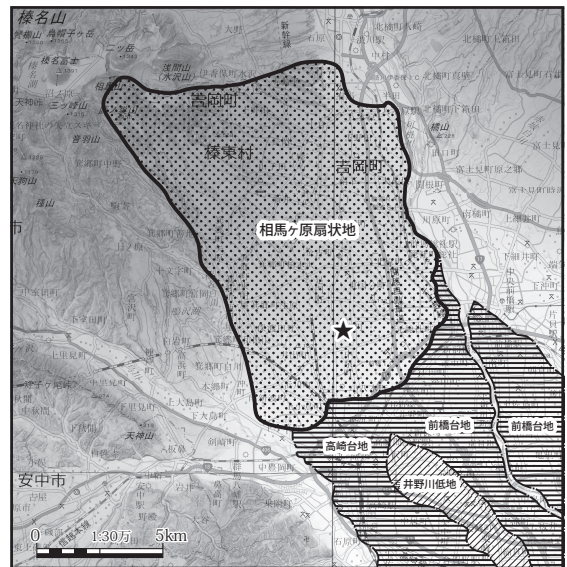
平成 29 年 3 月土地所有者志村宣重氏および工事主体者株式会社豊岡住宅から、高崎市棟高町において計画している宅地造成に先立つ埋蔵文化財の照会が市教育委員会文化財保護課（以下、市教委と略）にあった。当該地は周知の埋蔵文化財包蔵地である群馬町奈良・平安時代No.43 遺跡内にあるため、工事に際しては協議が必要である旨を回答した。開発計画が具体化した同年 3 月 30 日には、市教委へ埋蔵文化財試掘（確認）調査依頼書と文化財保護法に基づく届出が提出され、同年 5 月 10 日に試掘（確認）調査を実施した。その結果、古墳時代の竪穴建物跡を検出、埋蔵文化財の所在が明らかになった。この結果をもとに開発者と市教委で協議したが、現状保存は困難との結論に達し、発掘調査による記録保存の措置を講ずることで合意した。なお遺跡名については「棟高村北遺跡」とした。

発掘調査は「群馬県内の記録保存を目的とする埋蔵文化財の発掘調査における民間調査組織導入事務取扱要項」に順じ、平成 29 年 8 月 23 日に土地所有者志村宣重氏と民間調査機関有限会社歴史考房まほらとの間で契約を締結、また同日に土地所有者志村宣重氏・民間調査機関有限会社歴史考房まほら・市教委での三者協定も締結し、調査の実施にあたって市教委が指導・監督をすることとなった。

第Ⅱ章 遺跡の周辺環境

第 1 節 地理的環境

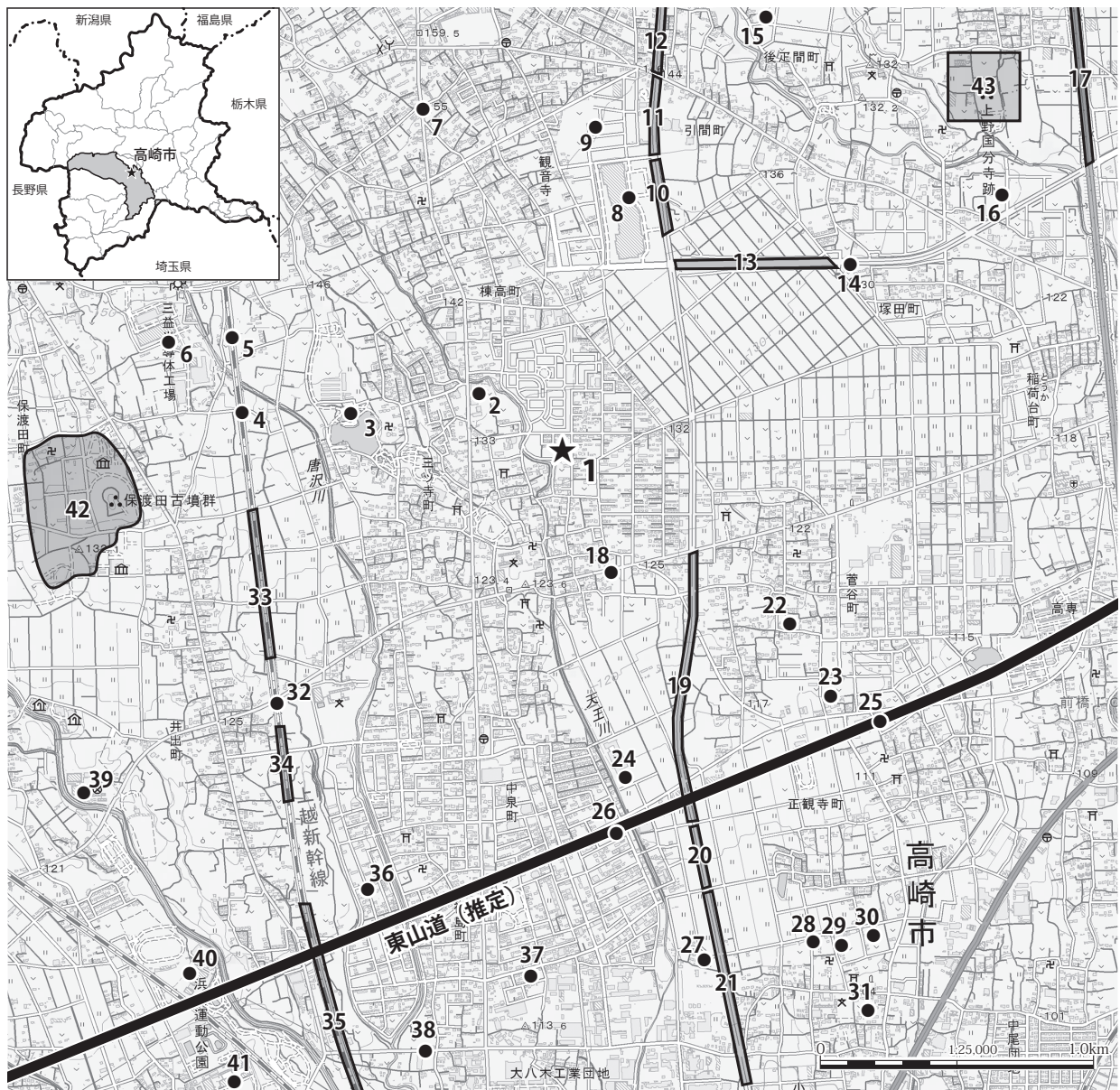
本遺跡は、榛名山南東に形成された相馬ヶ原扇状地の末端部にあり、北西から南東に向かい傾斜している地形の標高約 130 m に位置する。相馬ヶ原扇状地は陣馬岩層なだれに起因し、浅間白糸軽石層（火山灰降下年代約 2 万年前）を覆い、浅間板鼻黄色軽石層（火山灰降下年代約 1.5 ～ 1.6 万年前）に覆われることから約 2 万～ 1.5 万年前に形成された扇状地と考えられている。扇状地末端の標高は約 110m ほどで、末端は崖線状などの明瞭な地形的特徴を形成せず、前橋台地・高崎台地などの周辺地形面になだらかに接している。本遺跡周辺の扇状地部は八幡川、牛池川、染谷川、天王川、唐沢川等の小河川によって浸食され、浸食谷と自然堤防状の微高地が発達し、複雑な地形が形成されている。本遺跡は、天王川右岸（東側）の微高地上に立地する（第 1 図）。



第 1 図 周辺自然環境図

第 2 節 歴史的環境

本遺跡周辺では、古くは縄文時代前期の居住跡が確認され、以降、活動痕跡が連綿と続く（第 2 図・第 1 表）。縄文時代前期から中期は西浦北遺跡、上野国分僧寺・尼寺中間遺跡、大八木箱田池遺跡、後期は小八木志志貝戸遺跡がある。弥生時代以降になると居住遺構だけでなく、水田跡や畠跡などの生産遺構が現れる。弥生時代中期後半は熊野堂遺跡、雨壺遺跡、後期後半は西浦北遺跡、出村東遺跡、西三社免遺跡、熊野堂遺跡、正観寺遺跡群等がある。古墳時代は集落遺跡では、出村東遺跡、三ツ寺Ⅱ遺跡、三ツ寺Ⅲ遺跡、棟高遺跡群Ⅰ、棟高水窪Ⅱ・棟高辻の内Ⅳ遺跡、正観寺遺跡群等がある。三ツ寺Ⅰ遺跡では豪族居館が確認され、その北西約 1 km 離れた地点には保渡田古墳群が存在している。生産遺構では、水田跡が同道遺跡、芦田貝戸遺跡、御布呂遺跡、熊野堂遺跡、菅谷石塚遺跡等で、畠跡が西浦北遺跡、棟高遺跡群Ⅰ、棟高水窪Ⅱ・棟高辻の内Ⅳ遺跡、冷水村東遺跡等で確認されている。奈良・平安時代をまとめて古代とするが、集落遺跡に上野国分僧寺・尼寺中間遺跡、熊野堂遺跡、棟高南八幡街道遺跡がある。本遺跡から南に約 1.5km の地点には推定東山道が東西に走行し、それに関わる遺跡として福島飛地遺跡、高貝戸遺跡、また南東約 3 km の地点には国府推定地があり、本地域は、古代には中心的な地域であったことがうかがえる。生産遺構では、水田跡が芦田貝戸遺跡、御布呂遺跡、正観寺遺跡群、出村東遺跡、三ツ寺Ⅱ遺跡等で確認されている。このように、本遺跡周辺は縄文時代以降、遺跡が多く分布している地域として周知されている。



第2図 周辺遺跡分布図

第1表 周辺遺跡一覧表

No	遺跡名	性格	旧石器	縄文	弥生	古墳	古代	中世	近世	No	遺跡名	性格	旧石器	縄文	弥生	古墳	古代	中世	近世	No	遺跡名	性格	旧石器	縄文	弥生	古墳	古代	中世	近世		
1	棟高村北遺跡	居生		△						16	上野国分寺参道遺跡	居生								31	小八木宅地添遺跡	居生									
2	棟高南八幡街道遺跡	居生								17	上野国分僧寺・尼寺中間地域遺跡	居生									32	三ツ寺I遺跡	居生								
3	堤上遺跡	居生		△						18	棟高東弥三郎街道遺跡	居生									33	三ツ寺II遺跡	居生						●		
4	三ツ寺III遺跡	居生								19	菅谷石塚遺跡	居生				水					34	井出村東遺跡	居生						□	島	
5	保渡田遺跡	居生				水	水			20	正観寺西原遺跡	居生					水				35	熊野堂遺跡	居生						□	水	
6	保渡田東遺跡	居生								21	小八木志志貝戸遺跡	居生						島			36	西浦北遺跡	居生								
7	観音寺古墳	居生				●				22	菅谷城跡	居生									37	大八木箱田地遺跡	居生								
8	棟高遺跡群I	居生								24	菅谷遺跡群	居生									38	雨垂遺跡	居生								
9	棟高水窪II・棟高辻の内IV遺跡	居生								24	棟高西石田遺跡	居生									39	同道遺跡	居生								
10	西三社免遺跡	居生		△						25	高貝戸遺跡(推定東山道)	居生								40	御布呂遺跡	居生									
11	小池遺跡	居生		△						26	福島飛地遺跡(推定東山道)	居生								41	芦田貝戸遺跡	居生						□	水		
12	冷水村東遺跡	居生								27	オトウカ山古墳	居生									42	保渡田古墳群	居生						●	水	
13	棟高辻久保遺跡	居生								28	正観寺遺跡群	居生									43	上野国分僧寺	居生								
14	引間六石遺跡	居生								29	中川遺跡	居生																			
15	後正間遺跡群	居生								30	正観寺八木境遺跡	居生																			

項目「性格」の居は居住活動遺構、生は生産遺構の略。
 表中の記号は次のとおり、△：遺物のみ □：居住遺構
 ●：埋葬遺構 水：水田 島：島跡 ▼：島・水田

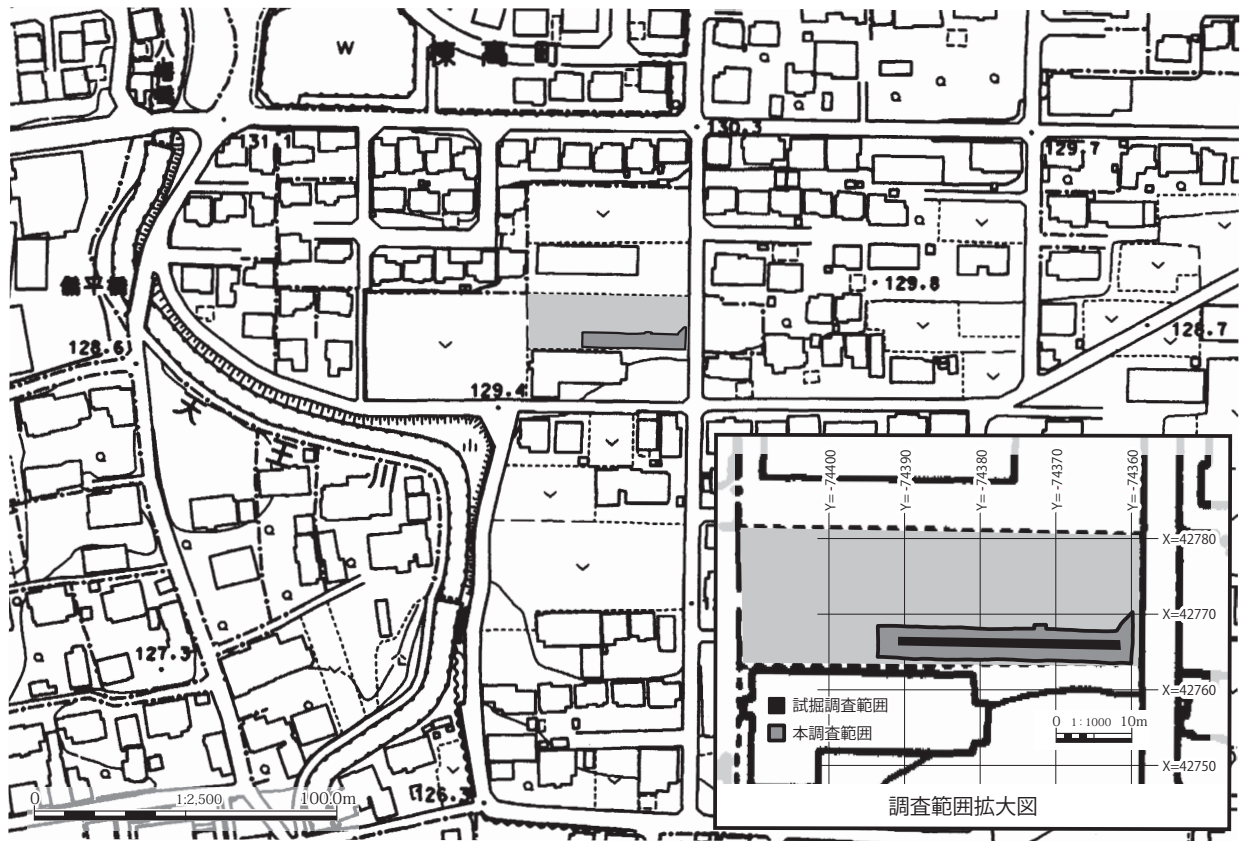
第Ⅲ章 発掘調査の成果

第1節 試掘調査と本調査の経過

宅地造成に伴う開発が本遺跡地点におよぶことになり、市教委によって試掘調査が行われた。試掘トレンチを設定し、重機で掘削した結果、As-Cを含む黒褐色土の下（現地表から約62cm下）から竪穴建物跡とピット群などの遺構が確認され、本調査を行う運びとなった（第3図）。

本調査は、試掘調査の結果を元に遺構を確認した面まで重機で掘削を行った。その後の遺構確認はジョレン等で行い、遺構の掘り下げは移植ゴテを基本とし、適時必要に応じてジョレン・スコップを使用した。調査は、ベルトを設定し遺構毎に土層の観察を行いながら掘り下げ作業を行った。遺構平面図は、器械測量で行い、遺構の底面や下層から出土した遺物は、器械測量で位置を計測し、No.を付けて取り上げ、覆土中の遺物は遺構毎に一括で取り上げた。記録写真撮影は35mmカラーリバーサルフィルム、同モノクロフィルム、デジタルカメラの3種類、スナップ写真はデジタルカメラ、小型ドローンを使用した。調査区全景撮影は小型ドローンを使って撮影した。

台風や雨天などの天候不順で現場を休止する日が度々あった。また、調査終了後から雨天が長期にわたって続き、埋め戻しを行える状態になるまで日数がかかった。気象的な影響もあり、機材搬入から埋め戻し完了まで52日を要した（第2表）。



第3図 遺跡位置と調査範囲図

第2表 発掘調査工程表

	9月														10月																																				
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24
機材搬入	■																																																		
重機掘削	■																																																		
遺構確認	■																																																		
遺構調査	■		■				■				■				■				■				■				■																								
空撮																																																			
埋め戻し																																																			
機材撤収																																																			

第2節 基本土層

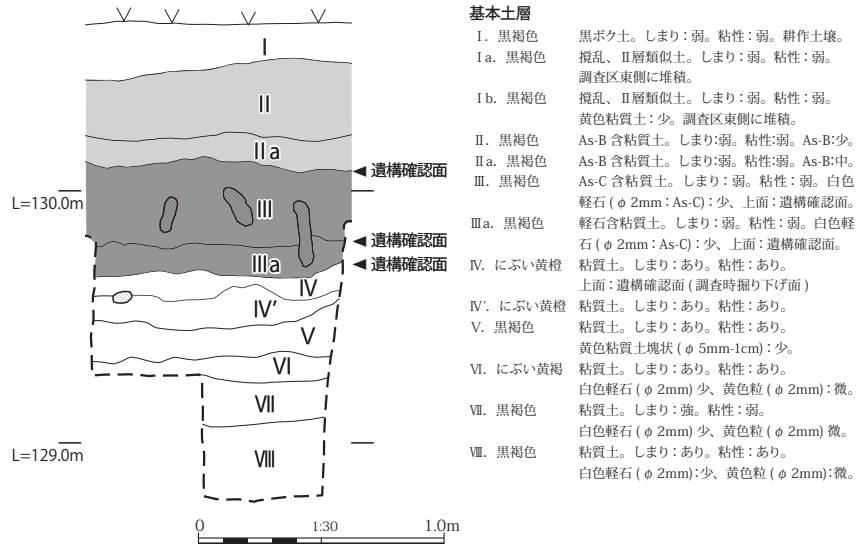
基本土層はローマ数字で記し、I～VIII層に分層した(第4図)。同層で包含物の含有量の差などで分層できる場合は、II a層と「アルファベットの小文字」を付した。漸移的な場合は、IV'層と主体層に「'」を付した。

基本土層は遺構の少ない調査区南西の壁面に設定した(第5図)。調査区の東から西に向かって緩やかな上り勾配になっている。I層は、現表土であり、耕作痕が残る。II層は、As-B粒混合の黒褐色粘質土層である。III層は、As-C粒混合の黒褐色粘質土層である。IV層は、にぶい黄橙色粘質土でいわゆるローム層状の堆積土である。IV層以下から土質はやや硬くしまり、粘性が強くなる。本調査で確認した基本土層は、VIII層までである。

遺構確認面についてだが、試掘調査ではIV層の上面で遺構が確認され、本調査での表土掘削も本層上面まで掘り下げた。しかし、遺構確認面については、本調査の過程で、III層上面、III a層上面から竪穴建物(SI-4・SI-6など)が掘り込まれていることを確認している。今後、周辺で発掘調査を行う際は、III層上面、As-Cが土中に含まれ始めたら遺構の有無に留意すべきである。ただ、本調査の表土掘削時は、遺構に注意しながら重機で土層を薄く剥いでIV層上面まで掘り下げたが、遺物の出土がほとんどなく、黒褐色の地山土層の中に黒褐色の覆土という条件のためIII層上面で遺構を認識することはできなかった。また、調査区東側、SI-1・SI-3の近辺は部分的にIV層上面まで既に掘削されていたようで、ビニールテープがIV層上面近くの深さに混入していたことを確認している。埋め戻された土壌の色調・土質はII層と酷似しており、攪乱と明確に判断できるような土層ではなかった。



写真1 基本土層 北から



第4図 基本土層図

第3節 検出された遺構と遺物

縄文時代と奈良・平安時代の遺構・遺物を確認した(第5図)。検出された遺構については、奈良・平安時代が竪穴建物(SI)8軒、土坑(SK)8基、ピット(P)31基、縄文時代が遺物集中部(SJ)1箇所である。

検出された各遺構については、SI・SJは「第3表」、SKは「第4表」、Pは「第5表」に計測・観察所見をまとめ、本文中は表中に記載できなかった「補足・特記事項」を記した。出土遺物も同様に「第6表」に記した。

第1項 遺構

「第3～5表」に記した計測・観察属性項目の内容は次のとおりである。

確認状況:遺構を完全に調査できた場合は「完掘」、完掘できなかった遺構はおおよその調査率を記した。形状:平面形と断面形を記した。断面でSIは、壁面の立ち上がりについて、SK・Pは、底面と壁面について記した。方位:長軸を主軸方向、座標北を基準として計測値を記した。計測値:長軸とそれに直行する短軸、確認面からの深さの計測値を記した。SIの深さに関しては、調査時の確認面が遺構形成時の地表面とは限らないため全て残存値として記した。重複関係:遺構重複状況の新旧関係を記した。出土遺物:出土した代表的な遺物を記した。帰属時期:時期が判別できる場合は時期を記した。覆土状態:人為堆積か自然堆積かを記した。遺構に付帯する遺構がある場合は、同様に項目を記載した。カマドについては、形状:カマドの平面形状からI型とII型に分類した。構築材:調査で

確認できたカマドの構築材を記した。計測値：形状に応じた計測値を記した。各属性項目で記した分類・記号表記等については、本書「凡例」を参照。

次に、遺構種別毎に補足・特記事項を記述する。

1. 竪穴建物 (SI、遺構：第6～11図・第3表・PL 2～5、遺物：第14～16・第6表・PL 6～8)

調査区全域に分布しているが、中央部が密で3軒重複している。時期は7世紀後半から11世紀前半と幅がある (第5図)。

SI-1：遺構は調査範囲外に延びる。範囲外東側のカマド側は調査を行いたかったが道路が敷設されており、地面の崩れなどを懸念して調査を断念した。SI-1中央部には重量33kgの大型台石 (遺物番号



写真2 SI-1カマド袖石確認状況 西から

(10) が埋設されていた。台石上面には磨痕を確認した。カマドは煙道部まで確認はできなかったが、埋め戻しの直前に、袖石を確認した。右側の袖石は整形加工された角閃石安山岩であった (写真2)。

SI-3：3つのカマドが重複していた。平面プラン確認段階で、カマド1が最も新しいと確認し、セクションでカマド3<カマド2という順を確認した (写真3)。カマド3はカマド2に直交しているので、



写真3 SI-3カマド平面プラン確認状況 西から

カマド3は別の竪穴建物に付帯する可能性を考え、周囲を精査した。しかし、SI-3以外の遺構は確認できなかった。このためカマド3はSI-3に付帯していた遺構と判断した。

SI-5：カマド両袖の構築材にはSI-1と同様に整形加工された角閃石安山岩が利用されている (写真4)。支脚は検出されなかったが、設置された痕跡と考えられる掘り込みを確認した (第8～10図カマド平面図)。



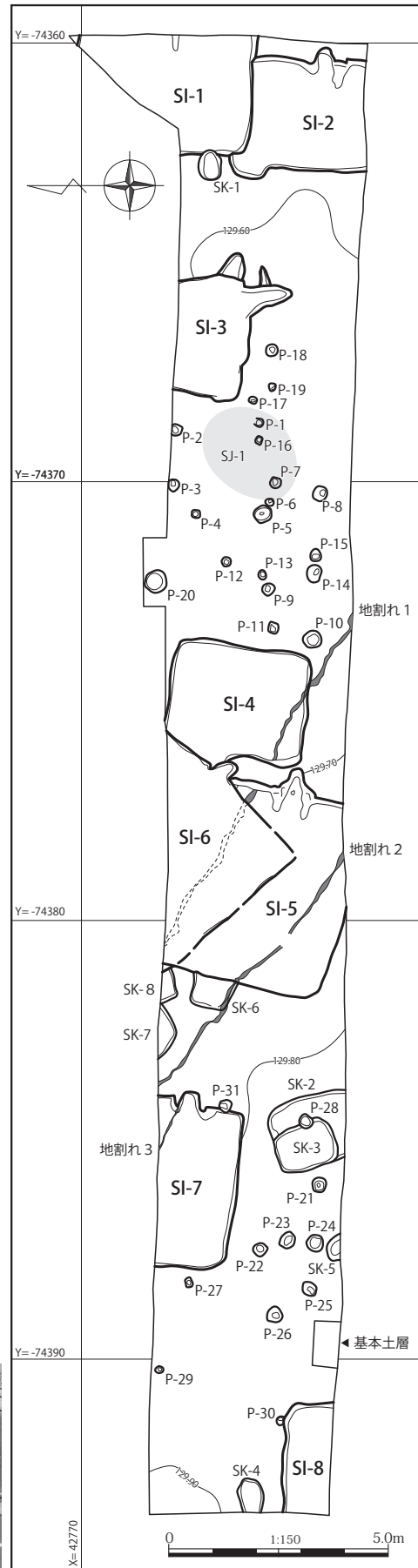
写真4 SI-5カマド袖石確認状況 北西から

カマドの残存状態は良好でカマドの構築過程が確認できた。カマドは、

SI-5掘り方→SI-5床面構築→袖石埋設→粘土補強、という順で構築されたようである。
SI-6：重機による表土掘削・遺構確認時点で6号住居を除く住居の平面プランを確認できたが、6号住居は確認できなかった。カマドの存在は確認していたが、当初そのカマ



写真5 遺構確認状況 東から



第5図 調査区全体図 S=1/150

ドは5号住居に伴うものと推測して調査を進めた(写真5)。その覆土が5号住居の覆土と土色が同じであったため平面プランの確認は困難で、5号住居の調査の過程で確認できた。そのため、平面形状と規模はベルトセクションの情報と地山への掘り込みの状況から推定している。

床面は、2面あったようである。1面は硬化面を確認し、もう1面はカマドの推定使用面から想定した。SI-6の範囲では大型の石が多数検出され、うち1点はSI-1と同様に埋設され上面に磨痕が認められる29kgの大型台石、その他の石の用途は不明である。これらの石の底面や台石の掘り込み面は、1面目の床底面に対応する。竪穴建物がもう1軒重複していた可能性がある。遺構北側調査区外で調査が行われる時に再検証してもらいたい。

地割れと重複するSI：本遺跡から地震による地割れの痕跡が確認された。調査当初は地割れという認識がなく、その痕跡の理解に苦慮したが、SI-5の床面精査の段階で地割れと認識することができた(写真6)。地割れ痕跡は3条確認し、1：N-60°-W方向、2：N-52°-W方向、3：N-65°-W方向と北西-南東方向にほぼ平行に走り、1はSI-4・SI-5・SI-6、2はSI-5、3は、SI-7と重複する。地割れの痕跡と重なるセクション部分を確認すると、SI-4・SI-7の該当部分にIV層の土壌を含んだ噴砂状の痕跡が見られた(写真7)。SI-5・6の該当部分のセクションには、SI-4・7のような顕著な痕跡は見られなかった(写真8)。ただ、SI-5のセクションについては、該当部分のセクションには明確な地割れの痕跡が残らなかっただけで、SI-5は埋没後に地割れの影響は受けたと結論づけた(第4章1参照)。地割れの影響は部分によって多寡があり、調査時に複数箇所の確認が必要であった。



写真6 SI-5地割れ痕跡確認トレンチ 西から



写真7 SI-4地割れの影響確認 東から

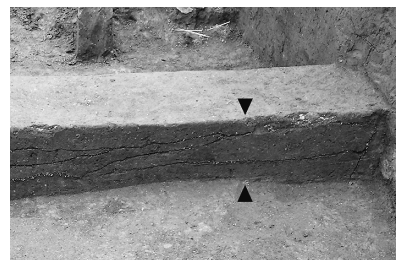


写真8 SI-5地割れの影響確認 西から

2. 縄文時代遺物集中部(SJ、第12図・第3表・PL5)

調査区東側に縄文時代遺物がまとまって出土したため、遺物集中部として遺物を取り上げ、その範囲をSJ-1とした(第5・12図)。SJ-1については表にまとめた(第3表)。調査・整理作業時の所見を次に記す。

調査時、SJ-1周辺に多数のピットを確認していたので、竪穴建物を想定して遺物分布範囲を中心に、遺構確認を行ったが炉や明確な遺構の掘り込みは確認できなかった。確認されたピット群の中に、建物の柱穴が含まれている可能性はあるが、調査時・整理作業時に特定することはできなかった。

3. 土坑(SK、遺構：第12・13図・第4表・PL2)

土坑は8基を確認した。分布は調査区東側で1基、残りは調査区西側に分布している(第5・12・13図)。各土坑については表にまとめた(第4表)。

4. ピット(P、遺構：第12・13図・第5表・PL2・5、遺物：第16・第6表・PL8)

ピットは調査区全体に散在し、31基を確認した(第5・12・13図)。各ピットについては表にまとめた(第5表)。調査・整理作業時の所見を次に記す。

P-20は調査区降り口のスロープを設ける時にⅢ層上面で確認した。他のピットと違い、平面プランは明瞭で、平面形状は正円に近く、確認時に違和感を感じた。精査の際、底面からプラスチック片と籾殻が出土し、現代遺構だと判別できた。P-20の覆土はAs-Bを含む暗褐色粘質土であり、同様の覆土のピットは調査区西側で確認されている。しかし、P-20から離れており、検出状況はP-20のようではなく現代遺構の可能性は低いと考える。

第2項 遺物

遺物についての詳細は表にまとめた(第6表)。表中の遺物の計測・観察属性項目の内容は次の通りである。

種別：土師器・須恵器・石器などの遺物の種目を記した。**器種**：種目に応じた器種を記した。**残存**：遺物の残存状況を記した。**計測値**：土器類は、口径・底径・器高(表中では、それぞれ「口」「底」「高」と表記)の計測値を、石器類は、長さ・幅・厚さ(それぞれ「長」「幅」「厚」と表記)の計測値を記した。その他に、土器類は、色調・胎土・焼成・内面調整・外面調整を、石器類は、重量・石材を記した。記号表記については、本書「凡例」を参照。

第3表 竪穴建物 (SI)・遺物集中部 (SJ) 一覧表

遺構名	掲載図 / 付帯遺構		確認状況	形状 / カマド構築材	方位 (長軸方位、Nは座標北) 計測値 (単位: cm)		①重複関係 / ②出土遺物 ③帰属時期 / ④覆土状態	特記事項・観察所見		
	遺構図	遺物								
SI-1	第6・7図	第14図	一部	平面 壁面	隅丸方形 急斜	方位 長×短×深	N-1° -E 407 × <226> × <50>	①SI-2 < SI-1 < SK-1 ②須恵器、土師器、大型台石など ③9世紀後半、④自然堆積	床面：不明瞭、掘り方：あり、壁周溝：なし。 確認はIV層上面。大型台石が中央部 (SK1) に埋設される。粘土の集中部あり。	
	付帯遺構			形状 構築材	不明 粘土、土師器： 甕、安山岩	方位 幅：A/B/C 長：D/E/F	N-91° -E A:54 D: <32>	②須恵器：甕、土師器：甕など	本文参照。	
	カマド		SK1	完堀	平面 断面	楕円形 有段平底直短	方位 長×短×深	— 38 × 30 × 16	②大型台石	大型台石を埋設するために掘られ、埋め戻さ れている。
SI-2	第6図	第14図	1/2 以上	平面 壁面	一部突出隅丸 方形 急斜	方位 長×短×深	N-0° -S <311> × 276 × <33>	①SI-2 < SI-1 < SK-1 ②須恵器：坏、土師器：甕など ③8世紀後半、④自然堆積	床面：不明、掘り方：あり、壁周溝：なし。 確認はIV層上面。カマド付近に灰が広がる。 北西隅が突出している。	
	付帯遺構			平面 断面	楕円形？ 平底急斜短	方位 長×短×深	— <65> × <22> × 14	—	—	覆土が灰のため、カマドから出た灰を貯めて いたのだろうか。
	カマド		SK1	完堀	形状 構築材	II型 粘土、土師器： 甕、安山岩	方位 幅：A/B/C 長：D/E/F	N-94° -E A:44 / B:45 / C:34 D:35 / E:21 / F:14	②須恵器、土師器：長胴甕など	支脚：土製品 (遺物番号13)、やや左寄りに 配置。
SI-3	第7図	第14図	不明	平面 壁面	隅丸方形 急斜	方位 長×短×深	N-93° -E 286 × <160> × <27>	②縄文土器、土師器：羽釜、須恵器： 甕など ③11世紀前半、④自然堆積	床面：不明瞭。掘り方：不明。壁周溝：なし。 確認はIV層上面。カマド付近に灰がひどく、掘り 方を確認している可能性あり。	
	付帯遺構			形状 構築材	I型 粘土、土師器： 甕、安山岩	方位 幅：A/B/C 長：D/E/F	N-116° -E A:— / B:57 D:— / E:59	①カマド 3 <カマド 2 <カマド 1 ②土師器：甕など	本文参照。 支脚：石、中央に配置	
	カマド1		SK1	完堀	形状 構築材	I型 粘土、土師器： 甕、安山岩	方位 幅：A/B/C 長：D/E/F	N-169° -E A:— / B:78 D:— / E:104	①カマド 3 <カマド 2 <カマド 1 ②土師器：羽釜など ③11世紀前半	本文参照。
	カマド2		SK1	完堀	形状 構築材	不明	方位 幅：A/B/C 長：D/E/F	N-83° -E A:— / B: <20> D:— / E: <44>	①カマド 3 <カマド 2 <カマド 1	本文参照。
	カマド3		P1	完堀	平面 断面	円形 平底直短	方位 長×短×深	— 69 × 66 × 30	—	貯蔵穴。
	SK1		P1	完堀	平面 断面	円形 丸底緩斜短	方位 長×短×深	— 27 × 25 × 11	—	—
SI-4	第8・9図	第14図	一部	平面 壁面	隅丸方形 急斜	方位 長×短×深	N-9° -E 318 × 277 × <52> 深はIII層上面から計測	①SI-4 ≠ SI-5 <地割れ < SI-6 ②縄文土器、軽石、土師器など ③覆土出土遺物は7世紀後半 ④自然堆積	床面：不明、掘り方：あり、壁周溝：なし。 地割れの痕跡あり (本文参照)。遺物は全点 覆土中。確認面はIII層上面。	
	付帯遺構：なし			形状 構築材	II型 粘土、安山岩	方位 幅：A/B/C 長：D/E/F	N-13° -E 451 × (447) × <44>	①SI-6 >地割れ > SI-5 ≠ SK-6 ②土師器、須恵器、磨石など ③7世紀後半、④自然堆積	床面：不明瞭、掘り方：あり、壁周溝：あり。 地割れの痕跡あり (本文参照)。 確認はIV層上面。	
SI-5	第8～10図	第15図	一部	平面 壁面	方形 急斜	方位 長×短×深	N-106° -E A:54 / B:62 / C:43 D:51 / E:26 / F:32	②土師器：坏、長胴甕など ③7世紀後半	—	
	付帯遺構			形状 構築材	不明	方位 長×短×深	— <57> × 64 × 52	—	—	貯蔵穴。
	カマド		SK1	完堀	平面 断面	円形 丸底有段直	方位 長×短×深	— 35 × 28 × 13	—	—
	SK1		P1	完堀	平面 断面	円形 丸底緩斜短	方位 長×短×深	— 48 × 46 × 19	—	—
	P1		P2	完堀	平面 断面	円形 平底有段直	方位 長×短×深	— 26 × 20 × 23	—	—
	P2		P3	完堀	平面 断面	円形 平底直	方位 長×短×深	— 42 × 41 × 7	—	—
	P3		P4	完堀	平面 断面	楕円形 丸底緩斜短	方位 長×短×深	— 66 × 61 × 30	—	—
SI-6	第8・10図	第15図	一部	平面 壁面	方形 急斜	方位 長×短×深	N-44° -E <429> × <403> × <60> 深はIII層上面から計測	①SI-4 ≠ SI-5 <地割れ < SI-6 ②土師器：甕など ③10世紀、④自然堆積	床面：硬化面部分的に確認、掘り方：あり、 壁周溝：なし。 確認面はIII層上面。床面2面 (本文参照)。	
	付帯遺構			形状 構築材	I型 粘土、土師器： 甕	方位 幅：A/B/C 長：D/E/F	N-133° -E A:— / B:52 D:— / E:43	—	—	—
	カマド		SK1	完堀	平面 断面	円形 平底直短	方位 長×短×深	— 66 × 61 × 30	—	—
	SK1		P1	完堀	平面 断面	楕円形 平底直短	方位 長×短×深	— <19> × <16> × (40)	—	—
SI-7	第11図	第16図	一部	平面 壁面	方形 急斜	方位 長×短×深	N-96° -E 374 × <198> × <31> 深はIII層上面から計測	①SI-7 <地割れ ② ③8世紀前半、④自然堆積	床面：不明瞭、掘り方：あり、壁周溝：なし。 地割れの痕跡あり (本文参照)。 確認面はIII層上面。	
	付帯遺構			形状 構築材	I型 粘土、土師器： 長胴甕	方位 幅：A/B/C 長：D/E/F	N-91° -E A:54 / B:47 D:27 / E:27	②土師器：坏・甕	—	—
	カマド		SK1	完堀	平面 断面	楕円形 平底直	方位 長×短×深	— 47 × 45 × 34	—	貯蔵穴
	SK1		SK2	完堀	平面 断面	楕円形 平底緩斜短	方位 長×短×深	— 47 × 45 × 4	—	—
	SK2		P1	完堀	平面 断面	楕円形 丸底緩斜短	方位 長×短×深	— 38 × 34 × 8	—	—
	P1		P2	完堀	平面 断面	楕円形 平底緩斜短	方位 長×短×深	— 17 × 15 × 8	—	—
SI-8	第11図	第16図	一部	平面 壁面	方形 急斜	方位 長×短×深	N-91° -E <249> × <109> × <54>	②須恵器：蓋、土師器：長胴甕な ど ③9世紀後半、④自然堆積	床面：不明瞭、掘り方：不明瞭、壁周溝：なし。 確認面はIII層上面。	
	付帯遺構：なし			平面 断面	楕円形 —	方位 長×短×深	N-51° -E <240> × <190> × —	②縄文土器：加曾利E、石器：石 鏃など ③縄文中期、④自然堆積	縄文遺物が比較的密に分布する。確認トレン チを設定して確認した、竪穴建物など明確な 遺構にはならなかった。	
SJ-1	第12図	第16図	不明	平面 断面	楕円形 —	方位 長×短×深	N-51° -E <240> × <190> × —	②縄文土器：加曾利E、石器：石 鏃など ③縄文中期、④自然堆積	縄文遺物が比較的密に分布する。確認トレン チを設定して確認した、竪穴建物など明確な 遺構にはならなかった。	

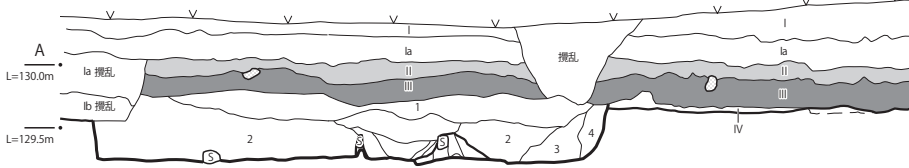
SI-1 : A-A'

1. 暗褐色 粘質土。しまり：強。粘性：強。黄色粒 (φ 5mm)：少。
2. 暗褐色 粘質土。しまり：強。粘性：強。黄色粒 (φ 5mm)：少、白色粘土塊状 (φ 5mm-1cm)：少。
3. 暗褐色 粘質土。しまり：強。粘性：強。黄色粒 (φ 5mm)：微。
4. にぶい黄褐 粘質土。しまり：強。粘性：強。白色粘土 (φ 1cm)：中、黄色粘土塊 (φ 5mm)：少。

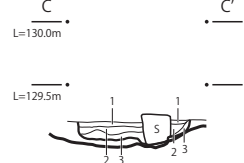
SI-2 : B-B'

5. 暗褐色 粘質土。しまり：強。粘性：強。黄色粒 (φ 5mm)：少。
6. 暗褐色 粘質土。しまり：強。粘性：強。黄色粒 (φ 5mm)：少、白色粘土塊状 (φ 5mm-1cm)：少。

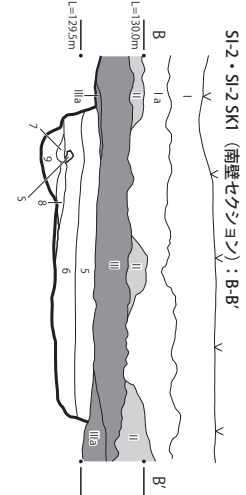
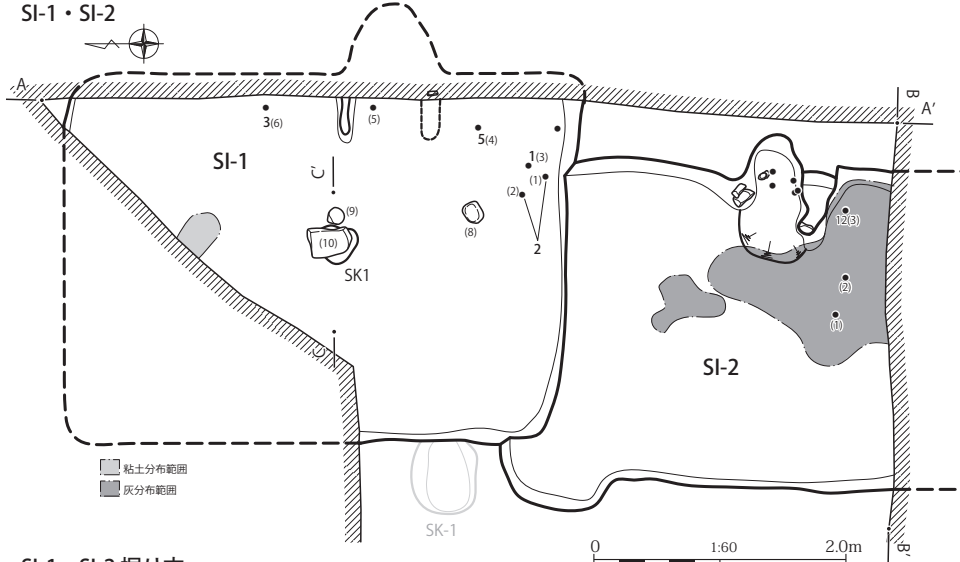
SI-1 (東壁セクション) : A-A'



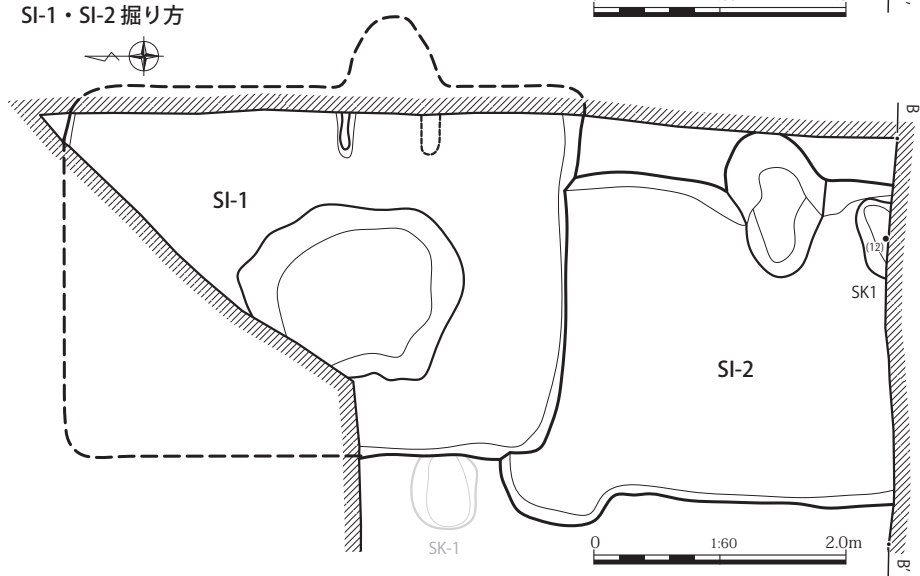
SI-1 SK1 : C-C'



SI-1・SI-2



SI-1・SI-2 掘り方



SI-1 SK1 : C-C'

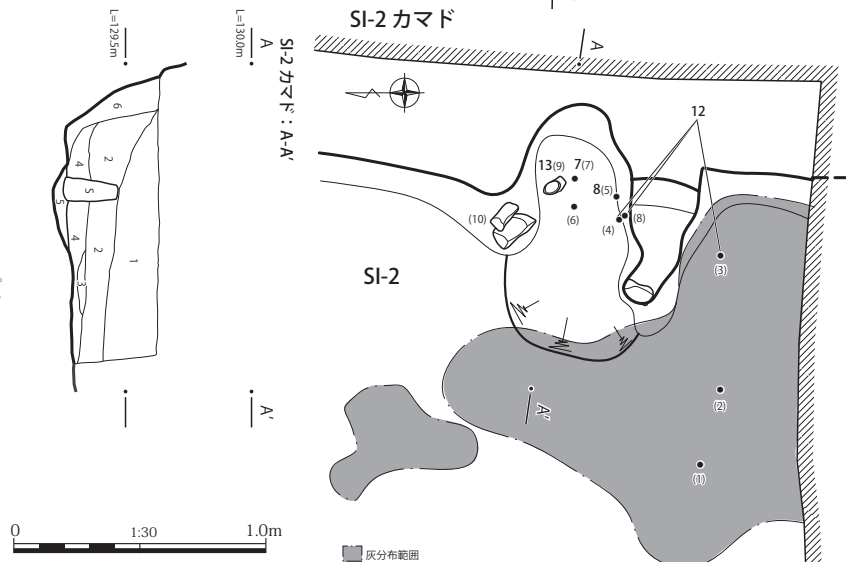
1. にぶい黄褐 粘質土。しまり：強。粘性：強。白色粘土 (φ 1cm)：中。黄色粘土塊 (φ 5mm)：少。
2. 暗褐色 粘質土。しまり：強。粘性：強。白色粘土：少。黄色粘土塊 (φ 5mm-1cm)：少。
3. にぶい黄褐 粘質土。しまり：強。粘性：強。白色粘土 (φ 1cm)：中。黄色粘土塊 (φ 5mm-1cm)：少。

SI-2 SK1 : B-B'

7. 暗灰 灰粘質土。しまり：弱。粘性：あり。灰：多。
8. にぶい黄褐 灰粘質土。しまり：強。粘性：強。灰：少、黄色粘土塊 (φ 5mm)：少。
9. 灰 灰層。しまり：なし。粘性：あり。

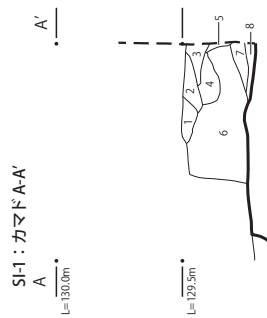
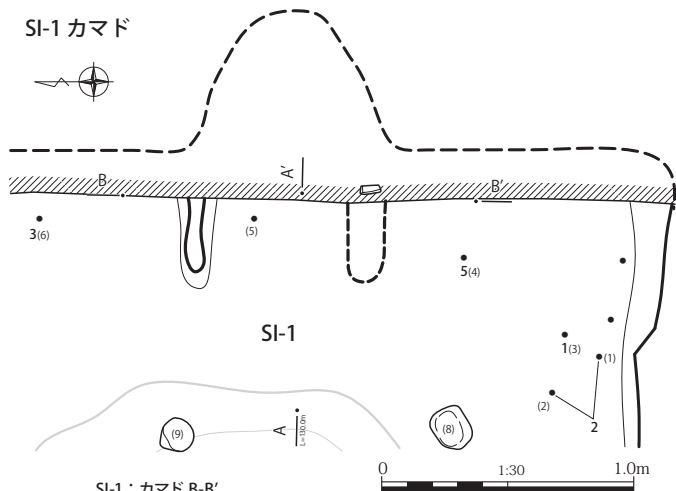
SI-2 カマド : A-A'

1. 暗褐色 粘質土。しまり：強。粘性：強。黄色粒 (φ 2mm-5mm)：微。
2. 暗褐色 粘質土。しまり：強。粘性：強。黄色粒 (φ 2mm-5mm)：微、焼土粒 (φ 2mm-5mm)：微。
3. 暗褐色 粘質土。しまり：強。粘性：強。黄色粘土塊状 (φ 1cm)：多。
4. 暗灰色 粘質土。しまり：弱。粘性：弱。灰混じり。
5. 黄褐色 粘質土。しまり：強。粘性：あり。焼土粒 (φ 2mm-5mm)：微。
6. 黄褐色 粘質土。しまり：強。粘性：あり。焼土粒 (φ 2mm-5mm)：少。

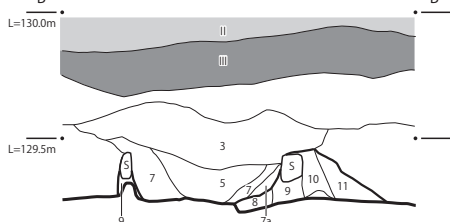


第6図 遺構図 SI-1・SI-2・SI-2 カマド

SI-1 カマド



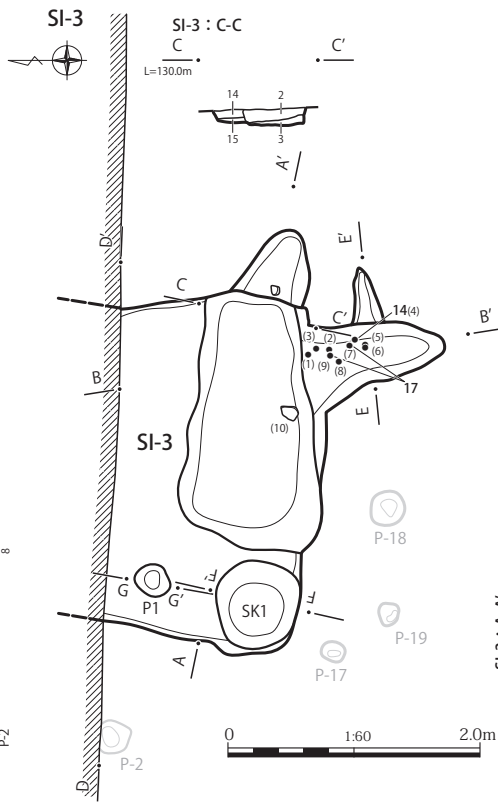
SI-1 : カマド B-B'



SI-1 カマド : A-A'

1. 暗黄褐色 粘質土。しまり：強。粘性：強。黄色粒 (φ 2mm-1cm)：少。
2. 赤褐色 焼土。しまり：強。粘性：強。
3. 暗黄褐色 粘質土。しまり：強。粘性：強。黄色粒 (φ 2mm-1cm)：少。白色粘土塊状 (φ 1cm-2cm)：少。
4. 黒褐色 粘質土。しまり：強。粘性：強。
5. 黄褐色 粘質土。しまり：強。粘性：強。黄色粒 (φ 2mm-5mm)：少。橙黄粒 (φ 5mm)：微。
6. 暗黄褐色 粘質土。しまり：強。粘性：強。黄色粒 (φ 2mm-5mm)：少。
7. 黄褐色 粘質土。しまり：強。粘性：強。黄色粒 (φ 2mm-5mm)：少。
- 7a. 黄褐色 粘質土。しまり：強。粘性：強。黄色粒 (φ 2mm-5mm)：少。橙黄粒 (φ 5mm)：微。
8. 暗灰色 灰。しまり：弱。粘性：なし。灰層。
9. 暗黄褐色 粘質土。しまり：強。粘性：強。黄色粒 (φ 2mm-5mm)：少。白色粘土塊状 (φ 2cm)：少。
10. 黄褐色 粘質土。しまり：強。粘性：強。黄色粒 (φ 2mm-5mm)：少。
11. 暗黄褐色 粘質土。しまり：強。粘性：強。黄色粒 (φ 2mm-5mm)：少。

SI-3

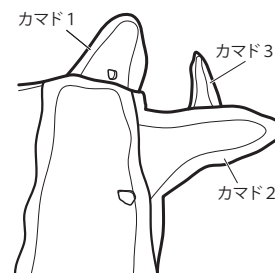


SI-3 カマド : E-E'

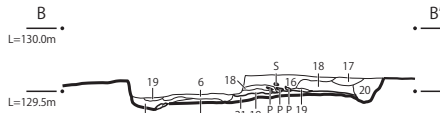
1. 暗褐色 粘質土。しまり：強。粘性：あり。焼土粒 (φ 2mm-3mm)：少。



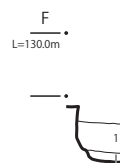
SI-3 カマド



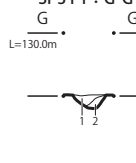
SI-2 : B-B'



SI-3 SK1 : F-F'



SI-3 P1 : G-G'



SI-3 : A-A'・B-B'・C-C'・D-D'

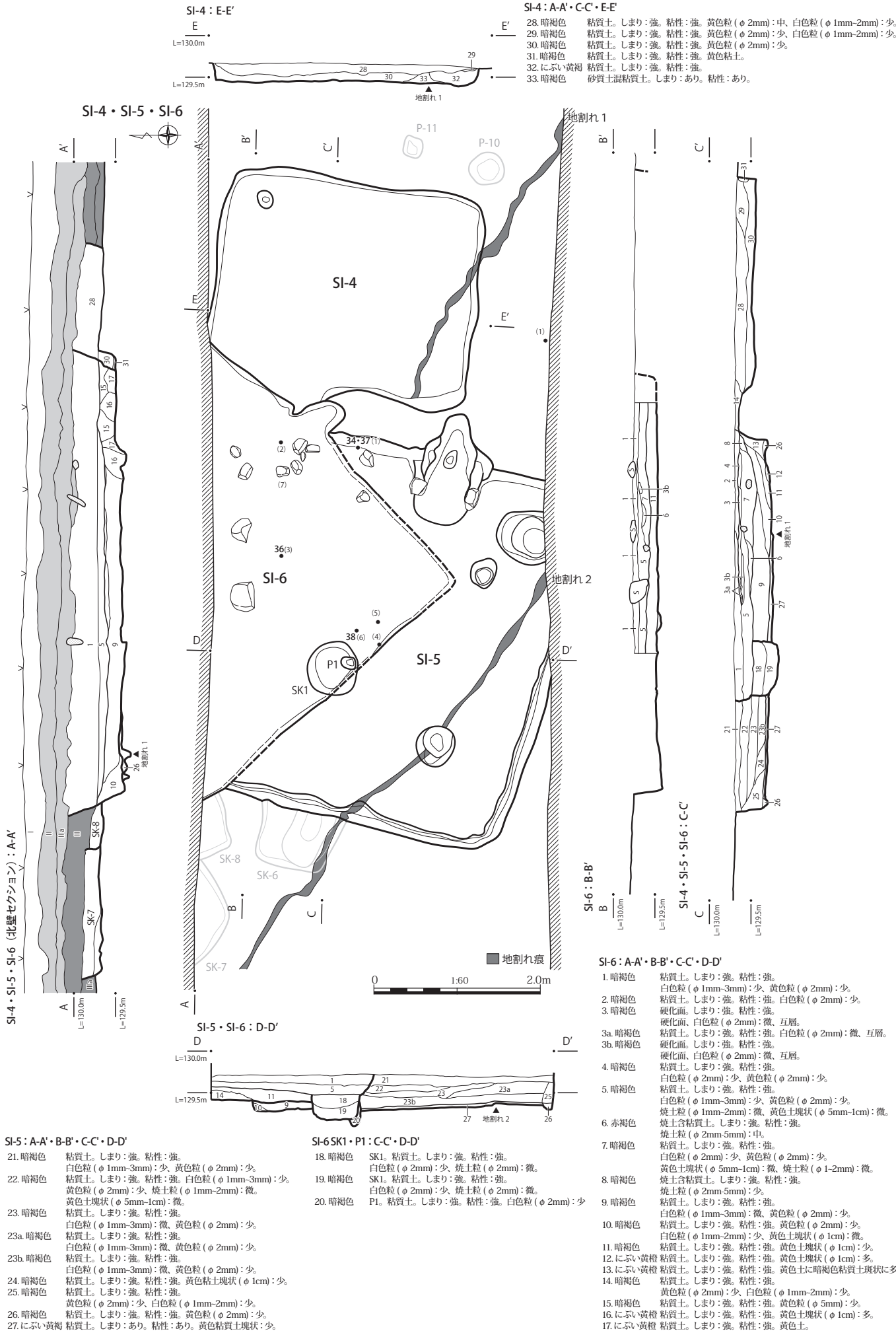
1. 暗褐色 粘質土。しまり：強。粘性：強。黄色粒 (φ 2mm-5mm)：少。焼土粒 (φ 1mm)：微。
2. 暗褐色 粘質土。しまり：強。粘性：強。黄色粒 (φ 2mm-5mm)：少。焼土粒 (φ 1mm)：少。
3. 暗褐色 粘質土。しまり：強。粘性：強。黄色粒 (φ 2mm-5mm)：少。焼土粒 (φ 1mm)：少。黄色土塊状 (φ 1cm)：少。灰混じり：微。
4. 暗褐色 粘質土。しまり：強。粘性：強。
5. 暗褐色 粘質土。しまり：強。粘性：強。黄色粒 (φ 2mm-5mm)：少。黄色土塊状 (φ 2cm)：中。
6. にぶい黄褐 粘質土。しまり：強。粘性：強。黄色土塊状 (φ 1cm-2cm)：多。
7. 暗褐色 粘質土。しまり：強。粘性：強。黄色粒 (φ 2mm-5mm)：少。

8. 暗褐色 粘質土。しまり：強。粘性：強。黄色粒 (φ 2mm-5mm)：少。
9. 赤褐色 焼土。しまり：あり。粘性：強。焼土粒 (φ 2mm-5mm)：多。
10. にぶい黄褐 粘質土。しまり：あり。粘性：あり。黄色土塊状 (φ 1cm-2cm)：中。
11. にぶい黄褐 粘質土。しまり：あり。粘性：あり。黄色土塊状 (φ 1cm-2cm)：多。
12. 黄褐色 粘質土。しまり：強。粘性：あり。黄色土：M 11の支脚のささえの粘土。
13. 暗褐色 粘質土。しまり：強。粘性：強。黄色粒 (φ 2-φ 5mm)：少。白色粒 (φ 2mm)：少。
14. 暗褐色 粘質土。しまり：強。粘性：強。焼土粒 (φ 2mm)：少。
15. 暗褐色 粘質土。しまり：強。粘性：強。焼土粒 (φ 2mm-5mm)：中。
16. 暗褐色 粘質土。しまり：強。粘性：強。黄色粒 (φ 2mm)：少。焼土粒 (φ 2mm)：少。
17. 暗褐色 粘質土。しまり：強。粘性：強。黄色粒 (φ 2mm)：少。焼土粒 (φ 2mm-1cm)：中。焼土層。しまり：あり。粘性：あり。黄色粒 (φ 2mm)：少。焼土粒 (φ 2mm-1cm)：中。灰層。しまり：弱。粘性：弱。灰。焼土粒 (φ 1mm)：少。
18. 赤褐色 粘質土。しまり：あり。粘性：あり。
19. 灰 灰層。しまり：弱。粘性：弱。灰。焼土粒 (φ 1mm)：少。
20. 暗褐色 粘質土。しまり：あり。粘性：あり。灰塊状 (φ 1cm)：少。焼土粒 (φ 2mm)：微。
21. 暗褐色 粘質土。しまり：強。粘性：強。焼土粒 (φ 2mm-5mm)：中。

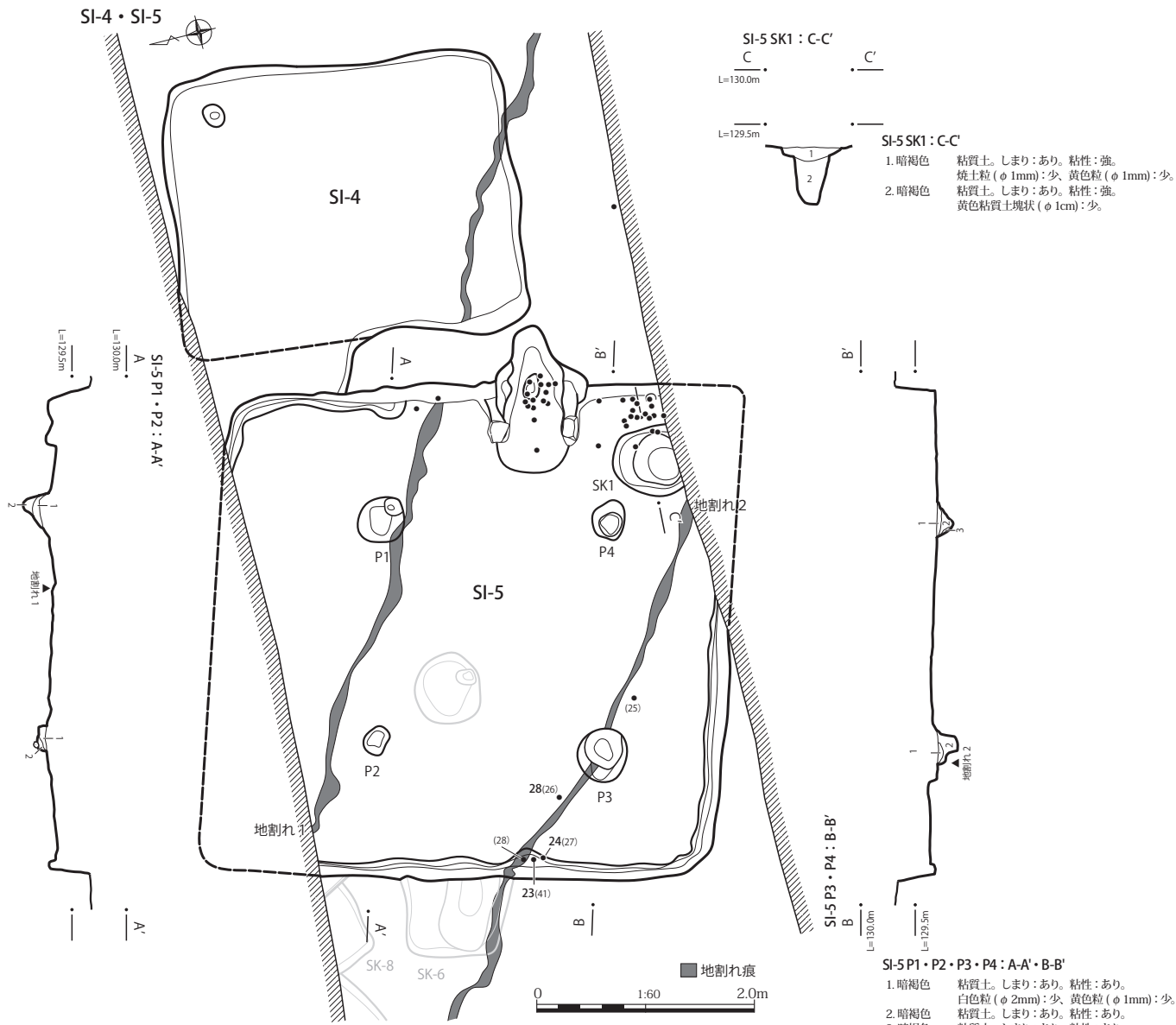
SI-3 SK1・P1 : F-F'・G-G'

1. 暗褐色 粘質土。しまり：あり。粘性：強。黄色粒 (φ 2mm)。
2. 暗褐色 粘質土。しまり：あり。粘性：強。黄色土塊状 (φ 5mm-1cm)：少。白色粒 (φ 2mm)：少。

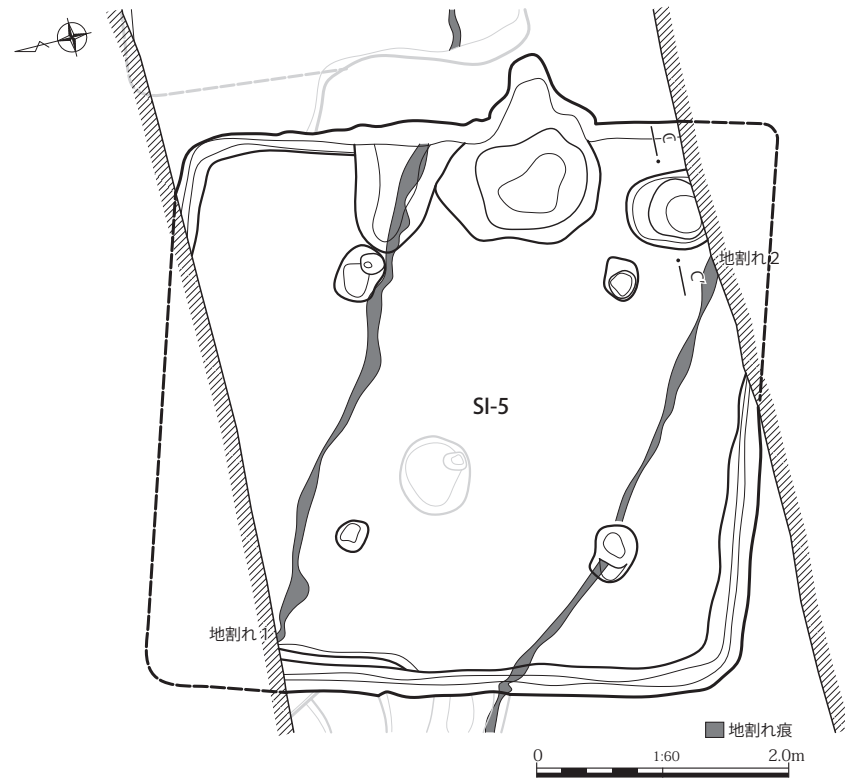
第7図 遺構図 SI-1 カマド・SI-3



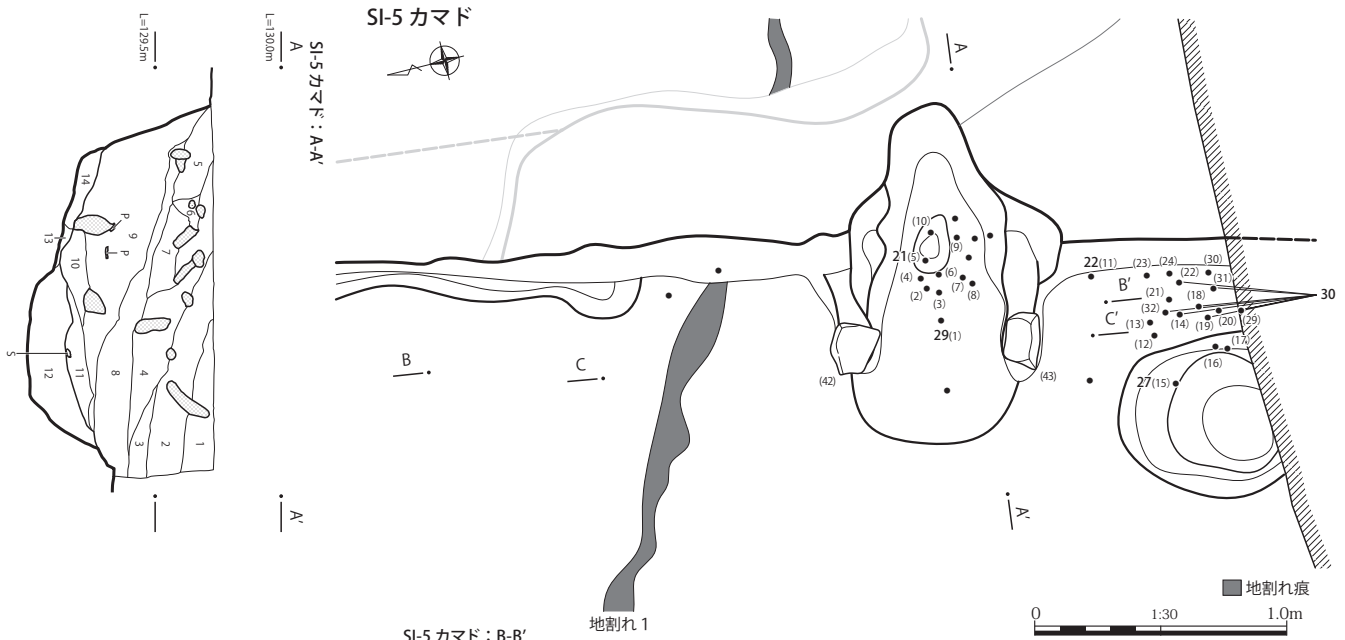
第8図 遺構図 SI-4・SI-5・SI-6



SI-5 掘り方



第9図 遺構図 SI-4 • SI-5

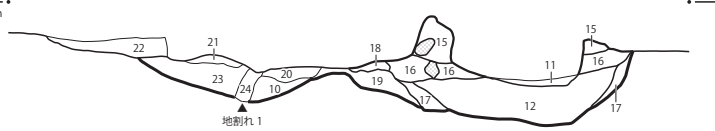


SI-5カマド：A-A'・B-B'

1. 暗褐色 粘質土。しまり：強。粘性：強。白色粒 (φ 2mm)：少。黄色粒 (φ 2mm-5mm)：少。
2. 暗褐色 粘質土。しまり：強。粘性：強。白色粒 (φ 2mm)：少。黄色粒 (φ 2mm-5mm)：少。
3. 暗褐色 粘質土。しまり：強。粘性：強。白色粒 (φ 2mm)：微。黄色粒 (φ 2mm-5mm)：微。
4. にぶい黄褐 粘質土。しまり：強。粘性：強。白色粒 (φ 2mm)：微。黄色粒 (φ 2mm)：微。黄色粘質土塊状 (φ 5mm-2cm)：中。
5. 暗灰 灰混入土。しまり：あり。粘性：あり。焼土粒 (φ 1mm)：少。灰：少。
6. 赤褐色 焼土混入土。しまり：あり。粘性：あり。焼土粒 (φ 1mm-5mm)：中。
7. 暗褐色 粘質土。しまり：あり。粘性：あり。焼土粒 (φ 1mm)：微。黄色粒 (φ 2mm)：微。
8. にぶい黄褐 灰混入土。しまり：あり。粘性：あり。下層に灰層あり。焼土粒 (φ 2mm)：微。
9. 灰 灰層。しまり：弱。粘性：弱。灰。焼土粒 (φ 2mm-5mm)：少。
10. にぶい黄褐 粘質土。しまり：あり。粘性：強。黄色粘質土。
11. 暗灰 灰粘質土。しまり：あり。粘性：あり。灰層。焼土粒 (φ 2mm-1cm)：少。
12. にぶい黄褐 灰粘質土。しまり：あり。粘性：あり。灰少。焼土粒 (φ 2mm-5mm)：少。礫 (φ 1cm-3cm)：少。
13. にぶい黄褐 粘質土。しまり：あり。粘性：強。黄色粘土。
14. にぶい黄褐 粘質土。しまり：あり。粘性：あり。灰少。焼土粒 (φ 2mm)：少。黄色粘質土塊状 (φ 1-2cm)：多。
15. にぶい黄褐 粘質土。しまり：あり。粘性：あり。粘土。
16. 暗褐色 粘質土。しまり：あり。粘性：あり。黄色粘土塊状 (φ 1cm)：少。
17. にぶい黄褐 粘質土。しまり：あり。粘性：あり。砂質土：中。
18. 暗褐色 粘質土。しまり：あり。粘性：あり。
19. にぶい黄褐 砂質土含砂質土。しまり：あり。粘性：弱。砂質土に暗褐色土：少。
20. 暗褐色 粘質土。しまり：あり。粘性：あり。黄色粒 (φ 2mm)：微。
21. 黄褐色 粘質土。しまり：強。粘性：あり。黄色土。
22. 暗褐色 粘質土。しまり：あり。粘性：あり。白色粒 (φ 2mm)：少。黄色粒 (φ 2mm)：微。
23. にぶい黄褐 砂質土含砂質土。しまり：あり。粘性：弱。砂質土に暗褐色土：少。
24. 暗褐色 地割れに混入。粘質土。しまり：あり。粘性：あり。黄色粒 (φ 2mm)：少。

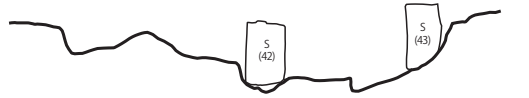
SI-5カマド：B-B'

L=130.0m

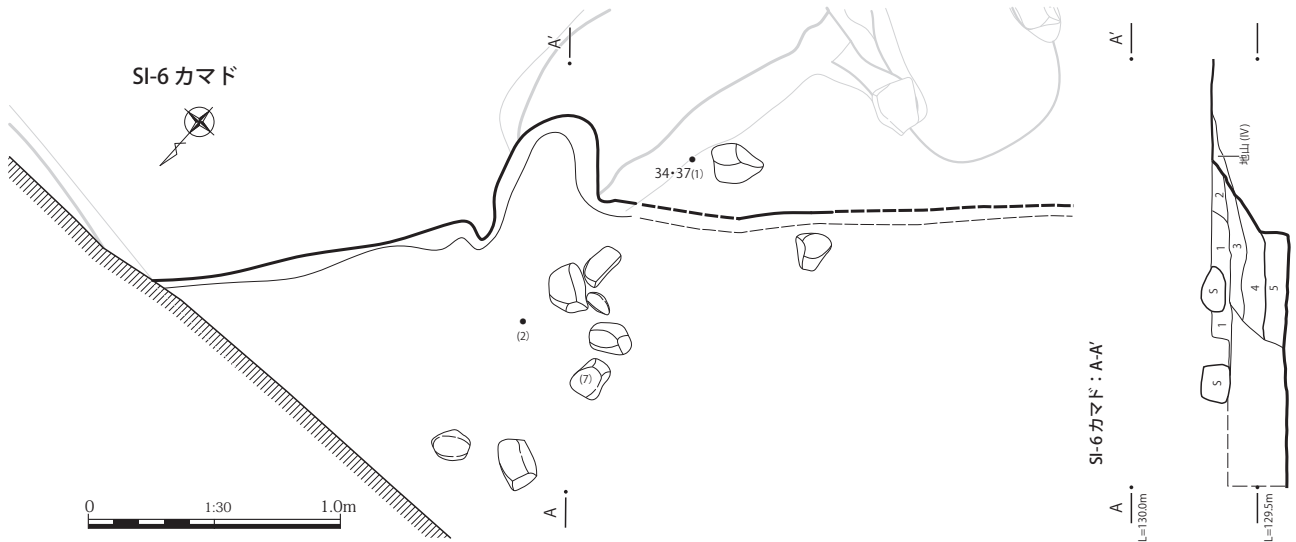


SI-5カマド：C-C'

L=129.5m



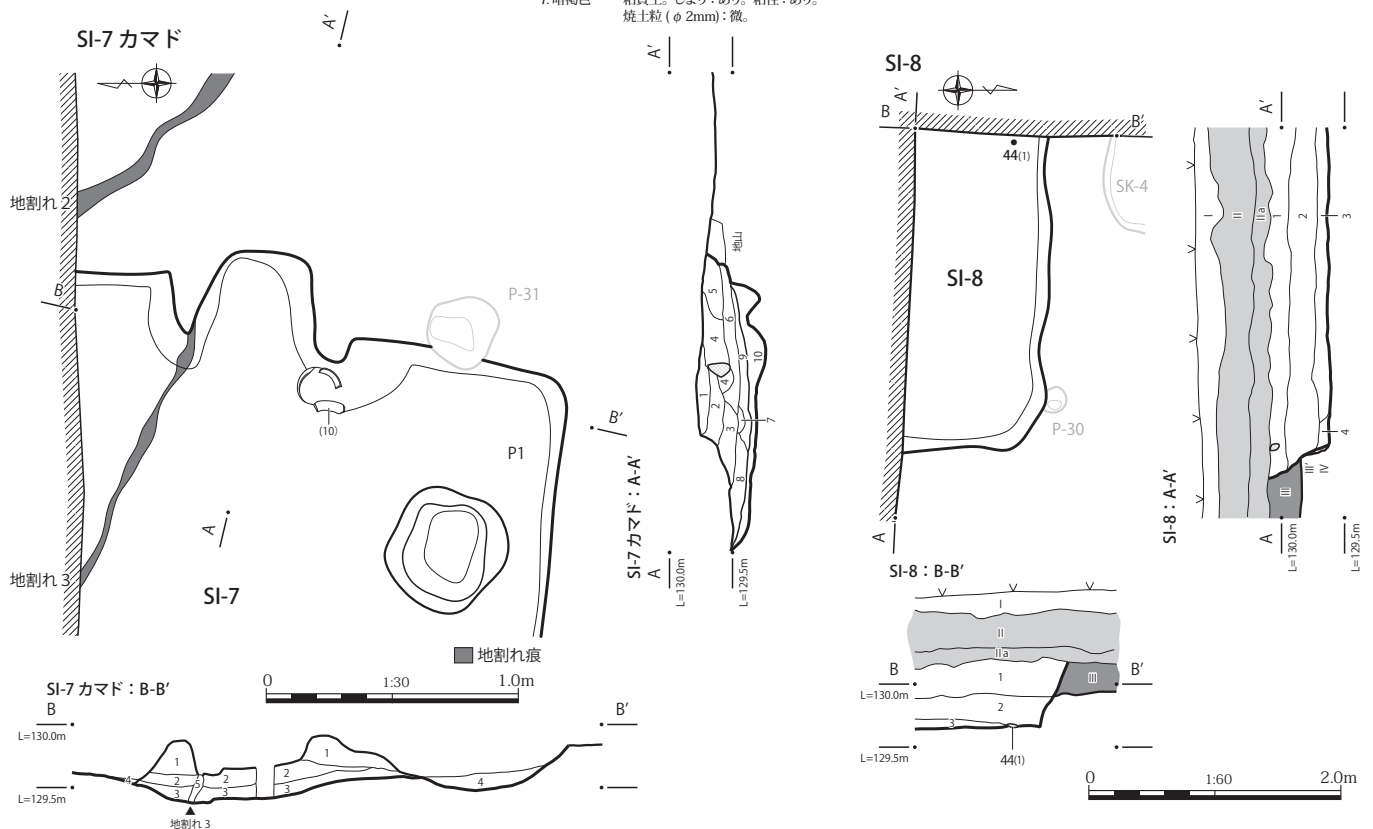
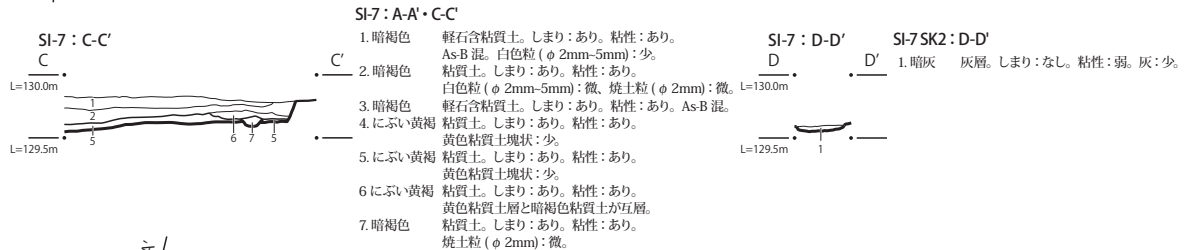
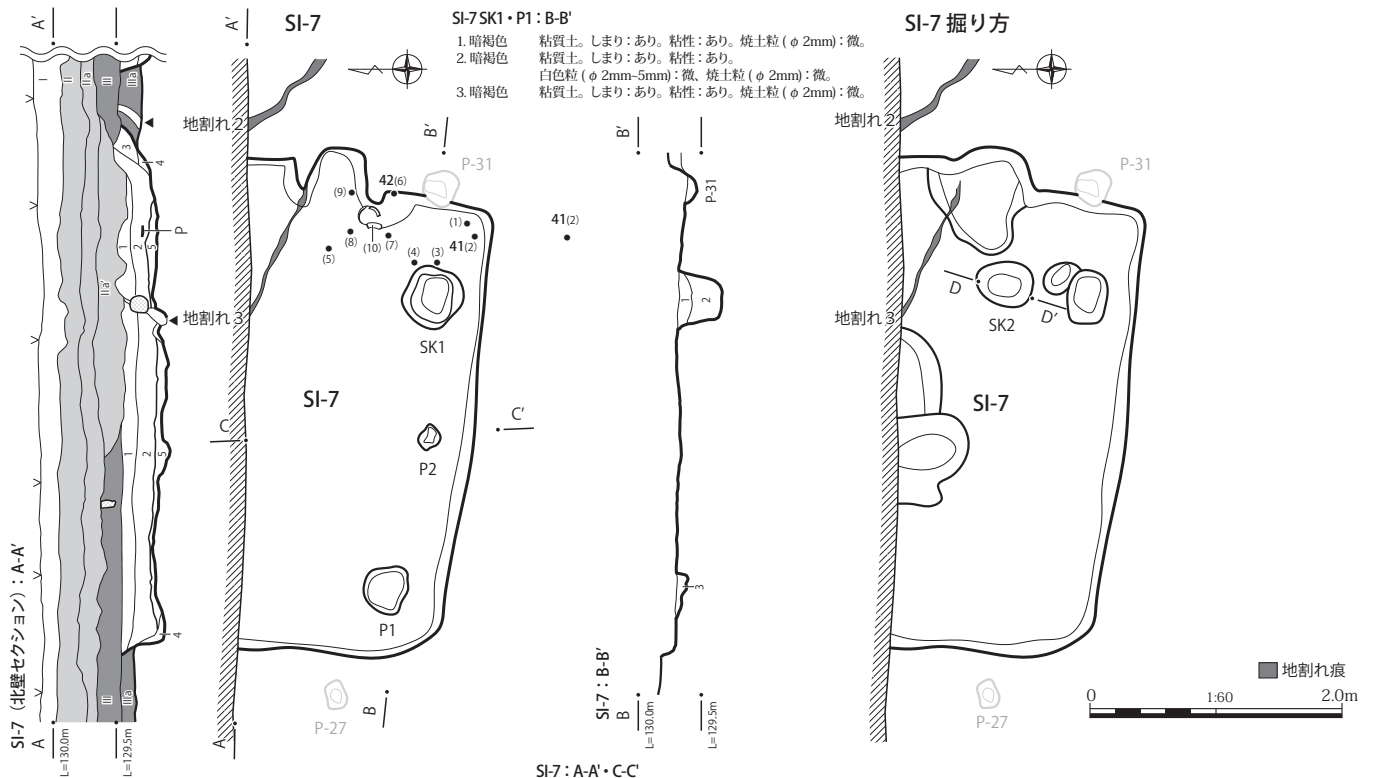
SI-6 カマド



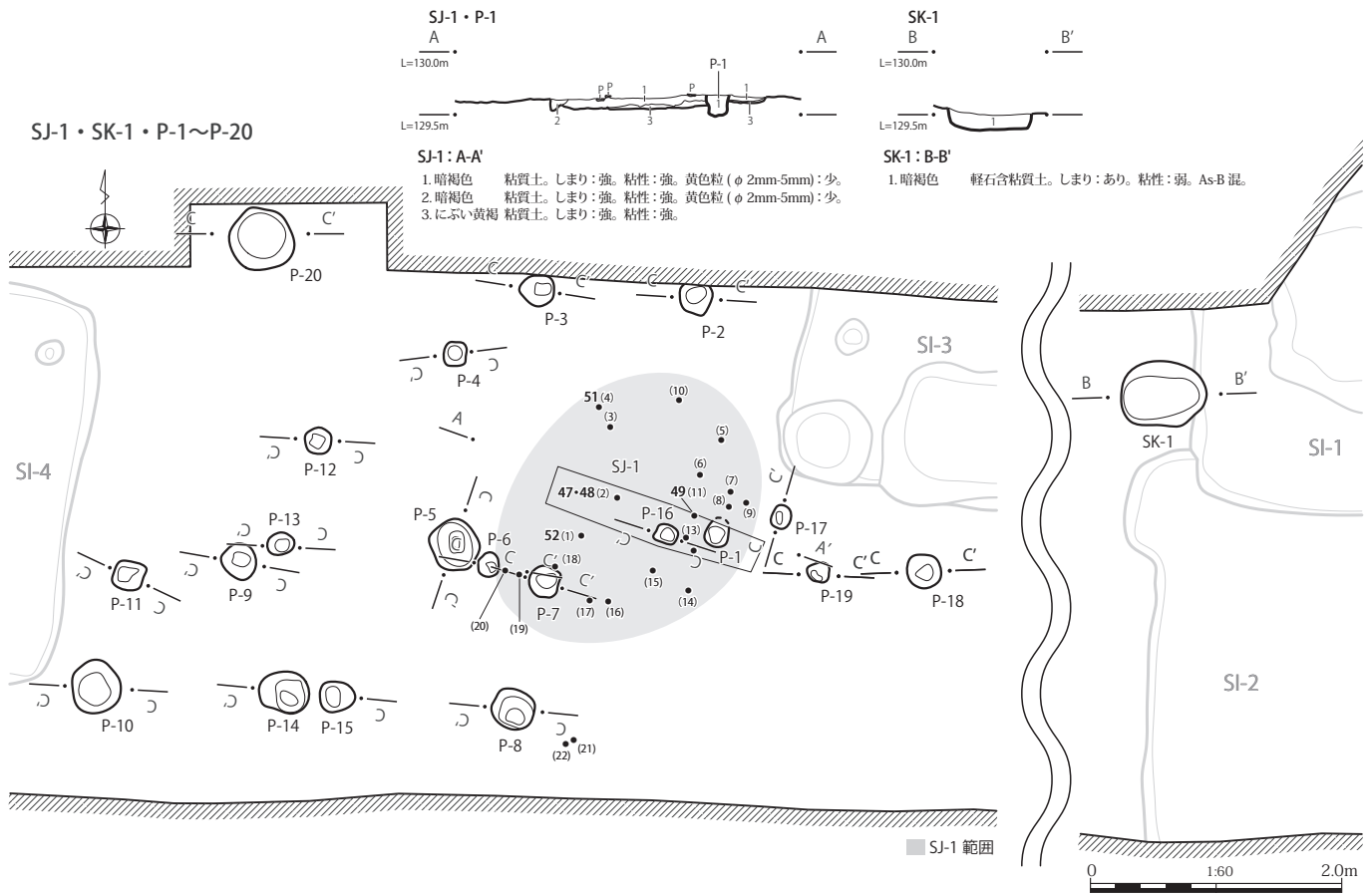
SI-6カマド：A-A'

1. 暗褐色 粘質土。しまり：強。粘性：強。焼土粒 (φ 2mm)：微。黄色粒 (φ 2mm)：微。
2. 暗褐色 焼土粘質土。しまり：強。粘性：強。焼土粒 (φ 2mm-5mm)：少。
3. 赤褐色 粘質土。しまり：強。粘性：強。焼土粒 (φ 2mm)：中。黄色粒 (φ 2mm)：少。
4. 暗褐色 粘質土。しまり：強。粘性：強。白色粒 (φ 2mm-5mm)：少。黄色粒 (φ 2mm)：少。
5. 暗褐色 粘質土。しまり：強。粘性：強。白色粒 (φ 2mm-5mm)：少。黄色粒 (φ 2mm)：少。

第10図 遺構図 SI-5カマド・SI-6カマド



第11図 遺構図 SI-7・SI-8



第12図 遺構図 SJ-1・SK-1・P-1～P-20

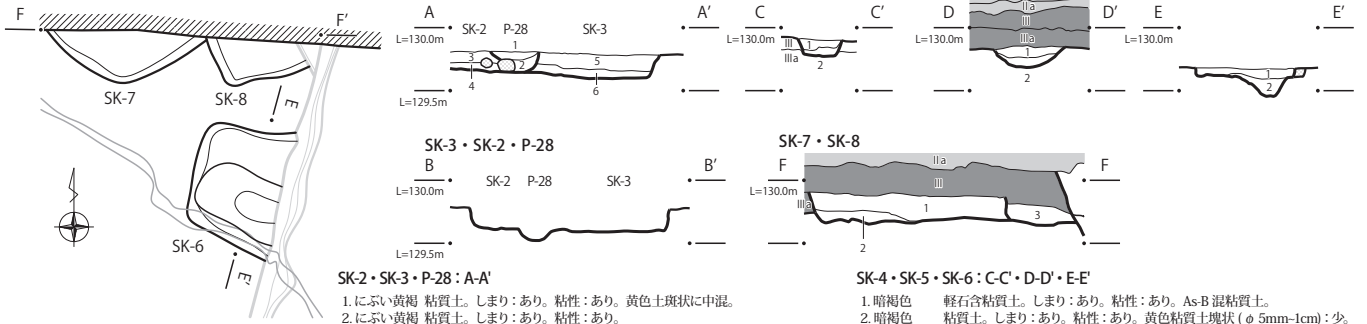
第4表 土坑 (SK) 一覧表

遺構名	掲載図		確認状況	形状 (単位: cm)		計測値 (長軸方位、Nは座標北)				重複関係	出土遺物	帰属時期	特記事項・観察所見
	遺構	遺物		平面形	断面形	長軸	短軸	長さ	方位				
SK-1	第12図	-	完掘	方形	平底直短	67	50	(12)	N-90°-E	SI-2 < SI-1 < SK-1	-	-	-
SK-2	第13図	-	3/4	方形	平底直短	(179)	164	19	N-35°-W	SK-2 < SK-3 < P-28	-	-	-
SK-3	第13図	-	完掘	方形	平底直短	136	105	14	N-28°-W	SK-2 < SK-3 < P-28	-	-	-
SK-4	第13図	-	3/4	方形	平底急斜短	80	59	12	N-81°-E	-	-	-	-
SK-5	第13図	-	1/2	方形	丸底曲短	(32)	49	16	N-91°-E	-	-	-	確認面はⅢa上面。
SK-6	第13図	-	完掘	方形	平底有段短	101	(70)	21	N-14°-E	SK-6 ≠ SI-5	-	-	確認面はⅢa上面。
SK-7	第13図	-	一部	不明	平底急斜短	(73)	(60)	21	N-56°-E	-	-	-	確認面はⅢa上面。
SK-8	第13図	-	一部	不明	平底直短	(64)	45	16	N-69°-E	SK-7 < SK-8	-	-	確認面はⅢa上面。

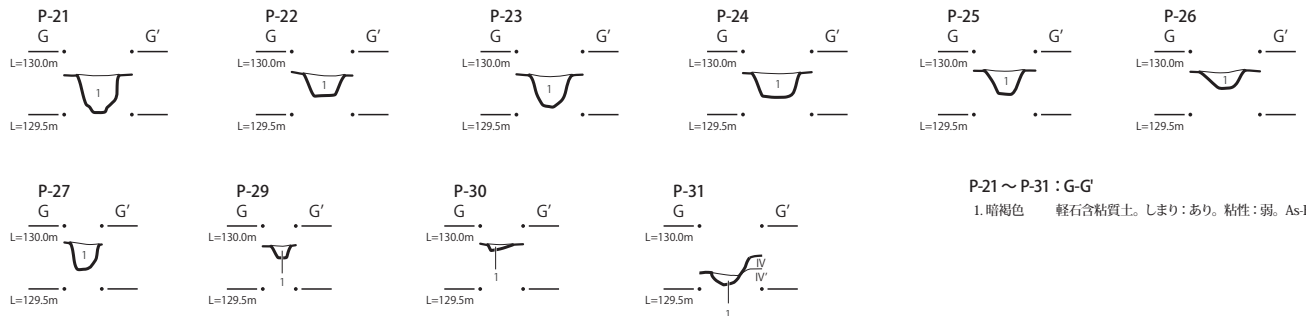
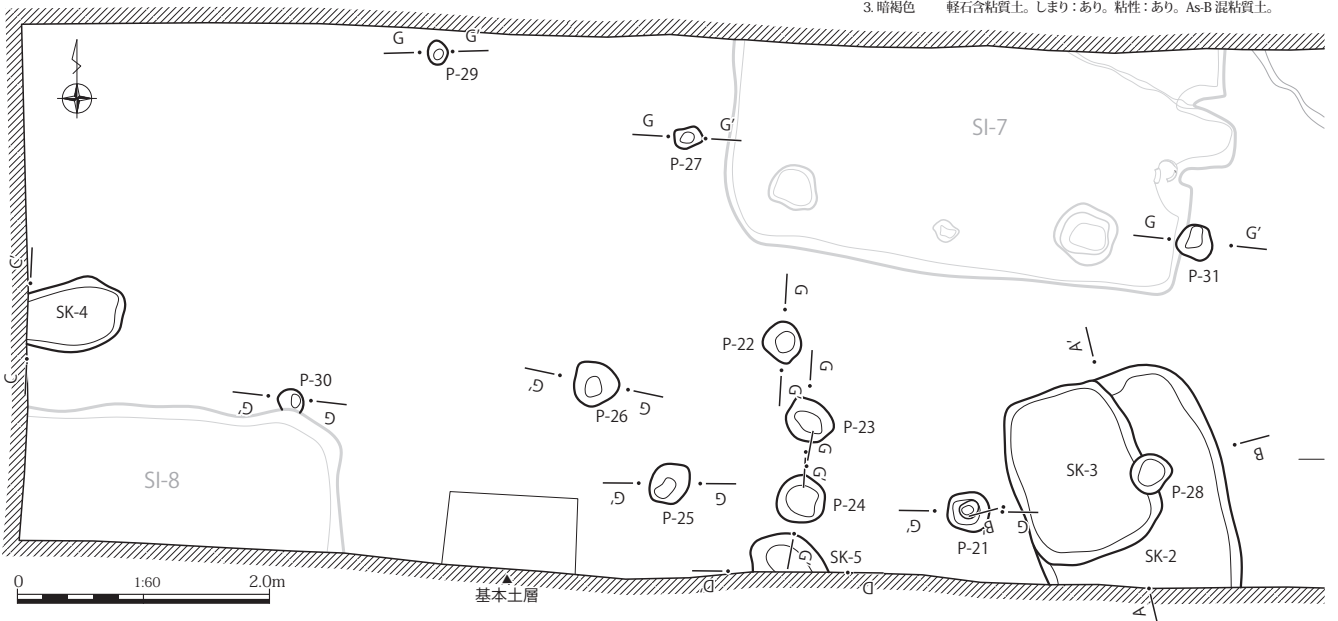
第5表 ピット (P) 一覧表

遺構名	掲載図		確認状況	形状 (単位: cm)		計測値 (長軸方位、Nは座標北)				重複関係	出土遺物	帰属時期	特記事項・観察所見
	遺構	遺物		平面形	断面形	長軸	短軸	長さ	方位				
P-1	第12図	-	完掘	円形	平底急斜	18	18	15	-	-	-	-	-
P-2	第12図	-	3/4	方形	丸底急斜	26	24	12	-	-	-	-	-
P-3	第12図	-	完掘	円形	平底急斜	27	23	27	-	-	-	-	-
P-4	第12図	-	完掘	方形	平底急斜	18	17	10	-	-	-	-	-
P-5	第12図	-	完掘	円形	平底有段短	40	36	16	-	-	-	-	-
P-6	第12図	-	完掘	円形	平底直	18	16	24	-	-	-	-	-
P-7	第12図	第16図	完掘	方形	平底急斜	24	23	13	-	-	-	-	-
P-8	第12図	-	完掘	方形	丸底急斜	33	31	53	-	8世紀前半	須恵器：坏	-	-
P-9	第12図	-	完掘	円形	丸底直	28	26	17	-	-	-	-	-
P-10	第12図	-	完掘	円形	丸底直	39	39	40	-	-	-	-	-

SK-6~SK-8

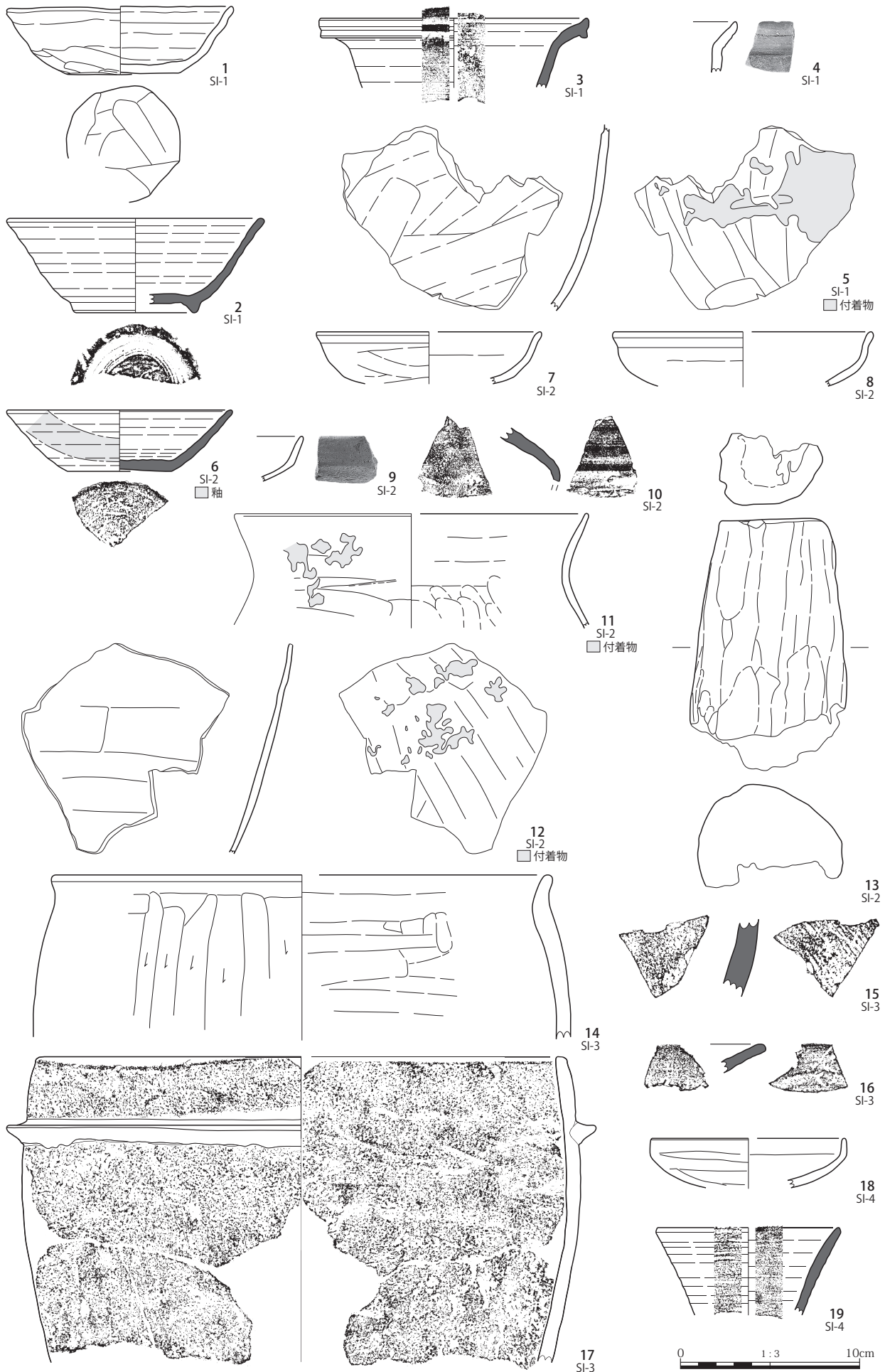


SK-2~SK-5・P-21~P-31

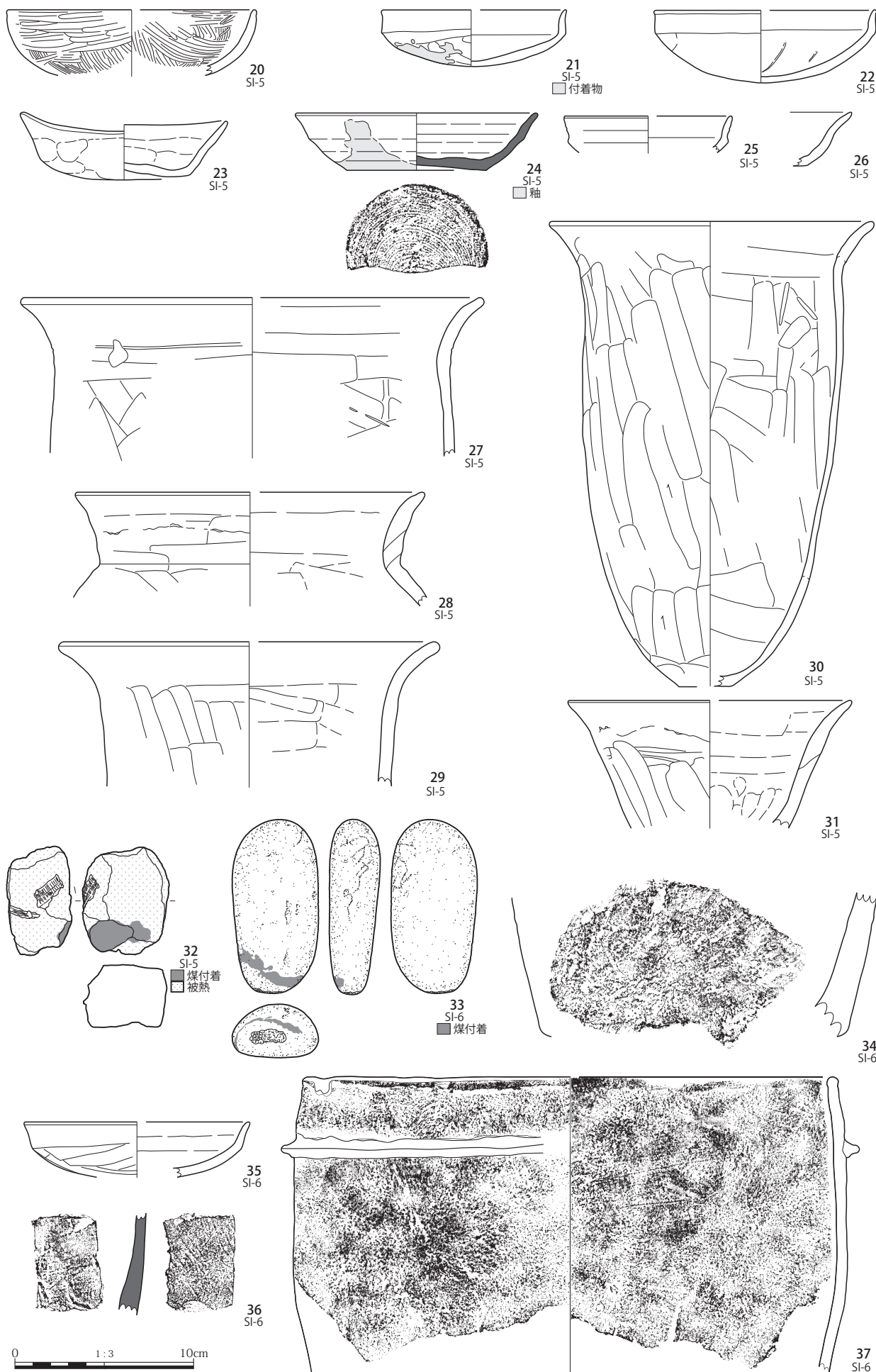


第13図 遺構図 SK-2~SK-8・P-21~P-31

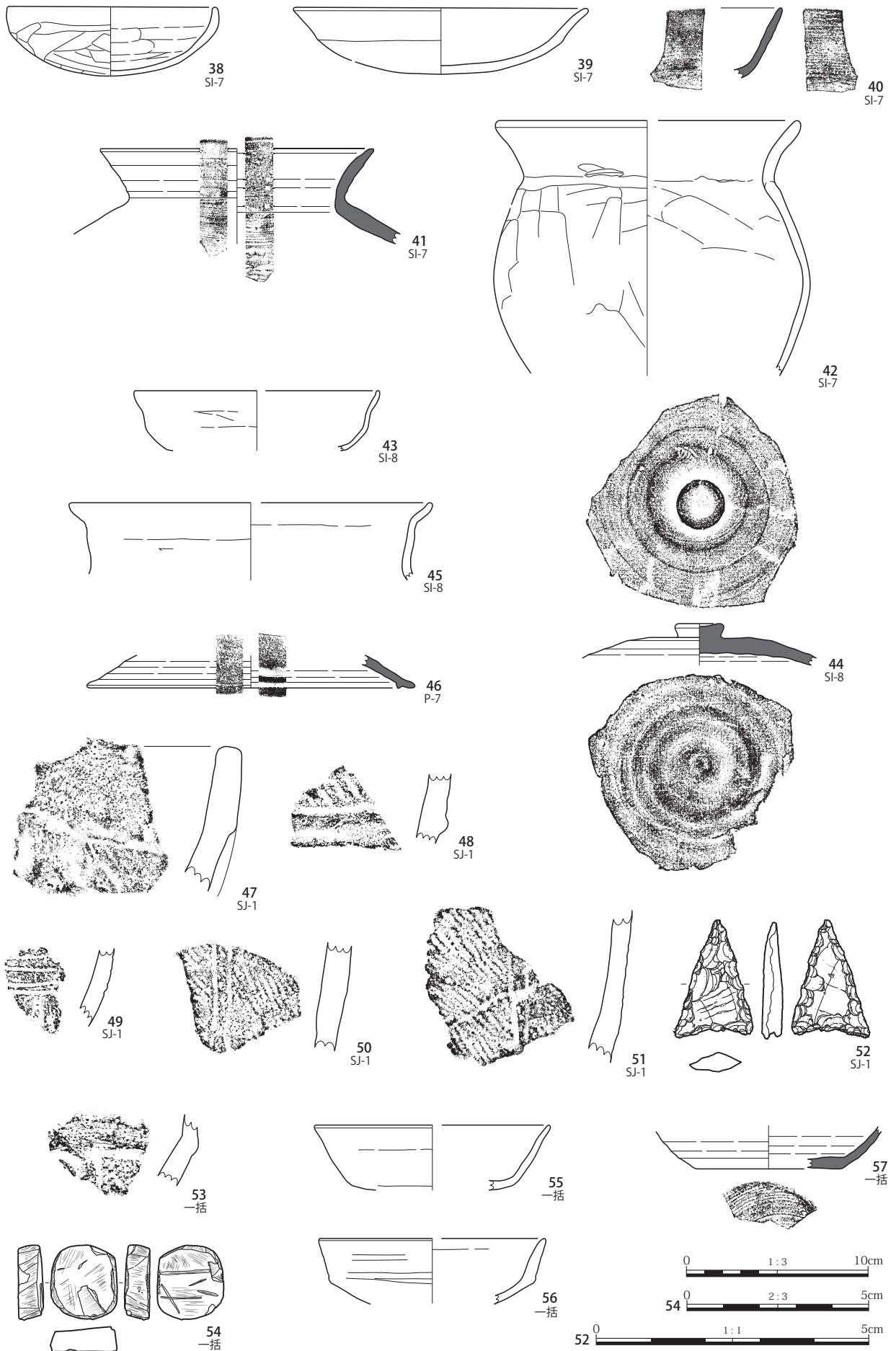
遺構名	掲載図	確認状況	形状 (単位: cm)		計測値 (長軸方位、Nは座標北)			重複関係	出土遺物	帰属時期	特記事項・観察所見
			平面形	断面形	長軸	短軸	長さ				
P-11	第12図	-	方形	丸底急斜	23	23	27	-	-	-	
P-12	第12図	-	円形	丸底急斜短	21	20	8	-	-	-	
P-13	第12図	-	円形	丸底急斜短	21	17	10	-	土師器: 甕	-	
P-14	第12図	-	円形	平底直	39	33	39	-	土師器: 甕	-	
P-15	第12図	-	円形	丸底緩斜短	28	24	11	-	-	-	
P-16	第12図	-	方形	平底急斜短	17	14	6	-	-	-	
P-17	第12図	-	円形	丸底緩斜短	18	15	8	-	-	-	
P-18	第12図	-	円形	丸底急斜	28	27	15	-	-	-	
P-19	第12図	-	円形	丸底急斜	17	15	16	-	-	-	
P-20	第12図	-	円形	平底直短	49	49	14	-	-	現代	底からプラスチック片出土
P-21	第13図	-	方形	有段丸底急斜	32	30	29	-	-	-	
P-22	第13図	-	円形	平底急斜	32	30	16	-	-	-	
P-23	第13図	-	円形	丸底急斜	38	32	24	-	-	-	
P-24	第13図	-	円形	平底急斜	37	37	18	-	-	-	
P-25	第13図	-	円形	平底緩斜	31	30	18	-	-	-	
P-26	第13図	-	円形	平底緩斜	35	34	12	-	-	-	
P-27	第13図	-	方形	丸底直	22	14	21	-	-	-	
P-28	第13図	-	円形	丸底直	31	30	25	-	SK-2 < SK-3 < P-28	-	
P-29	第13図	-	円形	平底緩斜	19	15	8	-	-	-	
P-30	第13図	-	円形	丸底緩斜短	20	15	4	-	-	-	
P-31	第13図	-	円形	丸底緩斜	28	27	27	-	-	-	



第 14 図 出土遺物図 (1)



第 15 図 出土遺物図 (2)



第 16 図 出土遺物図 (3)

第6表 出土遺物観察表

No	出土地点 図版/写真	種別/器種/残存	計測値 cm	土製品:①色調/②胎土/③焼成 石製品:④重量/⑤石材	内・外面の調整、観察所見など	注記
1	SI-1 第11図/PL6	土師器 環 ほぼ完形	口: 12.7 底: 6.3 高: 3.8	①にぶい褐色 ②雲母・石英・小石・砂 ③普通	外面:口縁部ヨコナデ、体部上ナデ、体部下~底部ヘラケズリ 内面:ヘラナデ 9世紀後半	711 SI-1 No.3
2	SI-1 第11図/PL6	須恵器 碗 1/2	口: 14.4 底: 7.0 高: 5.3	①黒色 ②角閃石・雲母・軽石・砂 ③普通/還元	外面:炭素吸着 内面:炭素吸着	711 SI-1 No.1・2
3	SI-1 第11図/PL6	須恵器 壺 口縁部破片	口:(15.0) 底: - 高: <3.8	①灰白色 ②石英・砂 ③良好/還元	外面:ヘラナデ 内面:ヘラナデ	711 SI-1 No.6
4	SI-1 第11図/PL6	土師器 甕 口縁部破片	口: - 底: - 高: <2.8	①灰褐色 ②雲母・砂 ③良好	外面:ナデ 内面:ナデ	711 SI-1
5	SI-1 第11図/PL6	土師器 甕 体部破片	口: - 底: - 高: <10.5	①褐色 ②雲母・砂 ③普通	外面:ヘラケズリ、付着物 内面:ヘラナデ	711 SI-1 No.4
6	SI-2 第11図/PL6	須恵器 環 1/4	口:(12.6) 底:(6.5) 高: 3.5	①褐色 ②長石・砂 ③良好/還元	底部:ヘラナデ 8世紀後半	711 SI-2
7	SI-2 第11図/PL6	土師器 環 口縁~体部破片	口:(12.6) 底: - 高: <2.9	①にぶい褐色 ②雲母・砂 ③良好	外面:口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ、底部ヘラケズリ 内面:口縁部ヨコナデ、体部以下ヘラナデ	711 SI-2 No.7
8	SI-2 第11図/PL6	土師器 環 口縁~体部破片	口:(14.6) 底: - 高: <3.1	①にぶい褐色 ②雲母・砂 ③良好	外面:口縁部ヨコナデ、体部ナデ 内面:口縁部ヨコナデ、体部ナデ	711 SI-2 No.5
9	SI-2 第11図/PL6	土師器 環 口縁部破片	口: - 底: - 高: <2.5	①にぶい褐色 ②雲母・砂 ③良好	外面:口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ 内面:口縁部ヨコナデ、体部ナデ	711 SI-2
10	SI-2 第11図/PL6	須恵器 壺 肩部破片	口: - 底: - 高: <3.0	①灰色 ②石英・砂 ③良好/還元		711 SI-2
11	SI-2 第11図/PL6	土師器 甕 口縁~体部破片	口:(19.8) 底: - 高: <6.4	①褐色 ②雲母・砂 ③普通	外面:口縁部ヘラナデ、体部ヘラケズリ、付着物 内面:ヘラナデ	711 SI-2
12	SI-2 第11図/PL6	土師器 長胴甕 体部破片	口: - 底: - 高: <11.7	①褐色 ②雲母・砂 ③普通	外面:ヘラケズリ、付着物 内面:ヘラナデ	711 SI-2 No.3・4・8
13	SI-2 第11図/PL6	土製品 支脚 1/2弱?	上径:<5.7 下径:<8.7 高:<14.0	①にぶい黄褐色 ②砂 ③良好	ヘラナデ	711 SI-2 No.9
14	SI-3 第11図/PL6	土師器 甕 口縁~体部破片	口:(28.0) 底: - 高: <9.2	①褐色 ②石英・雲母・小石・粗砂 ③良好	外面:口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ 内面:口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ	711 SI-3 No.4
15	SI-3 第11図/PL6	須恵器 甕 体部破片	口: - 底: - 高: <4.5	①灰色 ②石英・砂 ③良好/還元	外面:平行タタキ 内面:ヘラナデ	711 SI-3
16	SI-3 第11図/PL6	須恵器 甕 口縁部破片	口: - 底: - 高: <1.6	①灰白色 ②砂 ③普通/還元		711 SI-3
17	SI-3 第11図/PL6	土師器 羽釜 口縁~体部 1/6	口:(29.6) 底: - 高: <17.0	①褐色 ②角閃石・軽石・砂 ③普通	内外面:ヘラナデ 鋸貼付け後ナデ付け 11世紀前半	711 SI-3 No.7・9
18	SI-4 第11図/PL6	土師器 環 口縁~体部破片	口:(10.8) 底: - 高: <2.8	①褐色 ②雲母・砂 ③良好	外面:口縁部ヨコナデ、体部以下ヘラケズリ 内面:マメツ 7世紀後半	711 SI-4
19	SI-4 第11図/PL6	須恵器 壺 口縁部破片	口:(10.2) 底: - 高: <4.9	①灰白色 ②細砂 ③良好/還元	一部に自然釉	711 SI-4
20	SI-5 第12図/PL7	土師器 環 口縁~体部破片	口:(14.0) 底: - 高: <3.7	①にぶい褐色 ②雲母・細砂 ③良好	内外面:ミガキ 7世紀後半	711 SI-5
21	SI-5 第12図/PL7	土師器 環 1/4	口:(10.4) 底: - 高: 3.2	①にぶい褐色 ②雲母・砂 ③良好	外面:口縁部ヨコナデ、底部ヘラケズリ、付着物 内面:マメツ	711 SI-5 No.5
22	SI-5 第12図/PL7	土師器 環 1/4	口:(12.5) 底: - 高: 4.1	①褐色 ②石英・雲母・砂 ③良好	マメツ	711 SI-5 No.11
23	SI-5 第12図/PL7	土師器 環 1/4	口:(13.0) 底:(8.8) 高: 3.2	①にぶい褐色 ②雲母・砂 ③良好	内外面:ヘラナデ 地割れ部分で検出	711 SI-5 No.41
24	SI-5 第12図/PL7	須恵器 環 1/2	口:(13.6) 底: 7.8 高: 3.2	①灰白色 ②石英・砂 ③良好/還元	外面:底部回転系切り、一部自然釉 内面:底部外周ヘラナデ、口縁部重ね焼痕	711 SI-5 No.27
25	SI-5 第12図/PL7	土師器 環 口縁~体部破片	口:(9.4) 底: - 高: <2.1	①褐色 ②雲母・砂 ③普通	外面:口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ 内面:ヨコナデ	711 SI-5
26	SI-5 第12図/PL7	土師器 環 口縁~体部破片	口: - 底: - 高: <3.0	①褐色 ②雲母・砂 ③普通	マメツ	711 SI-5 カマド
27	SI-5 第12図/PL7	土師器 甕 口縁~体部破片	口:(26.0) 底: - 高: <9.0	①にぶい褐色 ②雲母・砂 ③良好	外面:口縁部ヘラナデ、体部ヘラケズリ 内面:口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ	711 SI-5 No.15
28	SI-5 第12図/PL7	土師器 甕 口縁~体部破片	口:(19.6) 底: - 高: <6.4	①褐色 ②雲母・砂 ③良好	外面:口縁~頸部ヘラナデ、体部ヘラケズリ 内面:口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ	711 SI-5 No.26
29	SI-5 第12図/PL7	土師器 長胴甕 口縁~体部破片	口:(10.7) 底: - 高: <8.2	①にぶい黄褐色 ②雲母・粗砂 ③良好	外面:口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ 内面:体部ヘラナデ	711 SI-5 No.1
30	SI-5 第12図/PL7	土師器 長胴甕 2/3	口:(18.2) 底:(3.0) 高: 26.0	①にぶい黄褐色 ②雲母・砂 ③良好	外面:口縁部ヨコナデ、体部以下ヘラケズリ 内面:口縁部ヨコナデ、体部以下ヘラナデ 7世紀後半	711 SI-5 No.14他

No	出土地点 図版/写真	種別/器種/残存	計測値 cm	土製品:①色調/②胎土/③焼成 石製品:④重量/⑤石材	内・外面の調整、観察所見など	注記
31	SI-5 第12図/PL7	土師器 甕 口縁～体部破片	口: (16.0) 底: — 高: < 7.2)	①にぶい橙色 ②石英・雲母・砂 ③良好	外面: 口縁部ヘラナデ、体部ヘラケズリ 内面: ヘラナデ	711 SI-5 No.25
32	SI-5 第12図/PL7	石製品 砥石 欠損	長: (6.0) 幅: (4.8) 厚: (3.5)	④ 84.91g ⑤砂岩	被熱、一部黒色に変色 被熱のため石材全体が劣化している。	711 SI-5
33	SI-6 第13図/PL8	石製品 敲石 完形	長: 9.7 幅: 4.8 厚: 2.9	④ 205.64g ⑤輝石安山岩	被熱、黒色付着物 SI-6の覆土から縄文土器 (No.34) が出土しているため、縄文時代の石器の可能性もある。	711 SI-6 No.6
34	SI-6 第12図/PL7	縄文土器 深鉢 体部破片	口: — 底: (17.2) 高: < 8.0)	①にぶい黄橙色 ②石英・雲母・軽石・砂 ③良好	無文	711 SI-6 No.1
35	SI-6 第12図/PL7	土師器 環 口縁～底部破片	口: (12.6) 底: — 高: < 3.2)	①橙色 ②雲母・砂 ③良好	外面: 底部ヘラケズリ、マメツ 内面: マメツ	711 SI-6
36	SI-6 第12図/PL7	須恵器 甕 体部破片	口: — 底: — 高: < 5.7)	①灰白色 ②長石・細砂 ③良好/還元	外面: 平行タタキ、ヘラナデ 内面: タタキ、ヘラナデ	711 SI-6 No.3
37	SI-6 第12図/PL7	土師器 羽釜 口縁～体部 1/6	口: (30.0) 底: — 高: < 16.7)	①にぶい橙色 ②石英・角閃石・軽石・チャート・砂 ③良好	外面: 指ナデ、ナデ、鏝貼付け後ナデ付け 内面: ヘラナデ 11世紀前半	711 SI-6 No.1
38	SI-5 第12図/PL7	土師器 環 1/2	口: 11.5 底: — 高: 4.8	①にぶい黄橙色 ②雲母・砂 ③普通	外面: 口縁部ヨコナデ、体部以下ヘラケズリ 内面: 口縁部ヨコナデ、体部以下ヘラナデ	711 SI-7
39	SI-7 第13図/PL8	土師器 環 1/2	口: (16.2) 底: — 高: 3.6	①橙色 ②雲母・石英・砂 ③普通	外面: 口縁部ヨコナデ、体～底部ヘラケズリ、マメツ 内面: 口縁部ヨコナデ、体～底部ヘラナデ、凍結剥離 8世紀前半	711 SI-7 包西
40	SI-7 第13図/PL8	須恵器 環 口縁～体部破片	口: — 底: — 高: < 4.1)	①灰白色 ②砂 ③良好/還元	外面: 底部回転ヘラケズリ	711 SI-7 掘
41	SI-7 第13図/PL8	須恵器 壺 口縁～体部破片	口: (15.2) 底: — 高: < 5.5)	①にぶい黄橙色 ②石英・砂 ③良好/弱還元	外面: 頸部ヘラナデ、肩部カキ目 内面: 頸部ヘラナデ、肩部カキ目	711 SI-7 No.2
42	SI-7 第13図/PL8	土師器 甕 口縁～体部 1/2 弱	口: (17.0) 底: — 高: < 14.1)	①にぶい橙色 ②雲母・砂 ③良好	外面: 口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ 内面: 口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ	711 SI-7 No.6
43	SI-8 第13図/PL8	土師器 環 口縁～底部破片	口: (13.5) 底: (9.8) 高: 3.3	①橙色 ②雲母・砂 ③良好	外面: 口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ・無調整、底部ヘラケズリ 内面: 口縁部ヨコナデ、頸部ヘラナデ 9世紀後半	711 SI-8
44	SI-8 第13図/PL8	須恵器 蓋 天井～体部 3/4	摘み径: 2.8 口: — 高: < 2.3)	①灰白色 ②砂 ③良好/還元	外面: 天井部糸切り後外周ヘラケズリ	711 SI-8 No.1
45	SI-8 第13図/PL8	土師器 甕 口縁～頸部破片	口: (20.0) 底: — 高: < 4.3)	①橙色 ②雲母・砂 ③良好	外面: 口縁部ヨコナデ、頸部ヘラナデ 内面: 口縁部ヨコナデ、頸部ヘラナデ	711 SI-8
46	P-7 第13図/PL8	須恵器 蓋 口縁部破片	口: (18.0) 底: — 高: < 1.8)	①灰白色 ②砂 ③良好/還元	8世紀前半	711 P-7
47	SJ-1 第13図/PL8	縄文土器 深鉢 口縁部破片	口: — 底: — 高: < 8.3)	①橙色 ②角閃石・軽石・石英・砂 ③普通	隆帯区画文 口縁部無文、RL? 縄文中期: 加曾利 E2	711 SJ-1 No.2
48	SJ-1 第13図/PL8	縄文土器 深鉢 体部破片	口: — 底: — 高: < 4.0)	①橙色 ②角閃石・軽石・粗砂 ③普通	隆帯区画文 多条沈線 縄文中期	711 SJ-1 No.2
49	SJ-1 第13図/PL8	縄文土器 深鉢 体部破片	口: — 底: — 高: < 4.4)	①明赤褐色 ②粗砂 ③普通	沈線文 縄文中期	711 SJ-1 No.11
50	SJ-1 第13図/PL8	縄文土器 深鉢 体部破片	口: — 底: — 高: < 6.0)	①橙色 ②雲母・砂 ③普通	沈線文 RL? 縄文中期: 加曾利 E2	711 SJ-1
51	SJ-1 第13図/PL8	縄文土器 深鉢 体部破片	口: — 底: — 高: < 8.4)	①橙色 ②雲母・砂 ③普通	沈線文 RL? 縄文中期: 加曾利 E2	711 SJ-1 No.4
52	SJ-1 第13図/PL8	石器 石鏃 完形	長: — 幅: — 厚: —	④ 0.83g ⑤ガラス質安山岩	平基	711 SJ-1 No.1
53	一括 第13図/PL8	縄文土器 深鉢 体部破片	口: — 底: — 高: < 4.0)	①橙色 ②石英・軽石・砂 ③普通	隆帯区画文 LR? 縄文中期: 加曾利 E2	711 表
54	一括 第13図/PL8	石製品 滑石製品素材 完形	長: 2.0 幅: 1.8 厚: 0.7	④ 4.97g ⑤滑石	白玉の素材の可能性あり。鑿状の工具による削り痕あり。	711 確認面
55	一括 第13図/PL8	土師器 環 口縁～底部破片	口: (13.0) 底: (8.8) 高: 3.6	①にぶい橙色 ②角閃石・軽石・砂 ③良好	外面: 口縁部ヨコナデ、体部ナデ、底部ヘラケズリ 内面: 口縁部ヨコナデ、体部以下ヘラナデ	711 表
56	一括 第13図/PL8	土師器 環 口縁～体部破片	口: (12.4) 底: — 高: < 3.6)	①にぶい黄橙色 ②雲母・砂 ③良好	外面: 口縁部ヨコナデ、体部以下ヘラケズリ	711 表
57	一括 第13図/PL8	須恵器 環 体～底部破片	口: — 底: (8.0) 高: < 2.4)	①オリーブ灰色 ②長石・砂 ③良好/還元	外面: 底部回転糸切り	711 SI-7 包東

第IV章 まとめ

本調査は限られた範囲の調査であり、遺跡の全容を捉えることはできなかったが、縄文時代、奈良・平安時代の生活痕跡を確認することができた。縄文時代は残念ながら遺物の分布のみで、遺構の確認には至らなかったが、本調査区近隣に縄文時代の遺跡が広がっている可能性を示唆できた。奈良・平安時代は竪穴建物跡が重複して確認でき、連綿として集落が営まれたことが想定できた。SI-1・SI-6は大型の台石を埋設し、何らかの作業を建物内で行っていたようである。いずれも、今後、周辺で調査が行われた時の指針となり得る成果である。また、地震による地割れの痕跡を確認できたことは重要である。1995年の阪神・淡路大震災、2011年の東日本大震災と国内は、地震による大災害を受け、地震を含めた災害史の検証が、災害の周期・規模を想定し、現在のみならず後世の防災の一助となるということで災害痕跡が注目されている。本調査は災害史の研究においても有意義な記録となった。

1. 地震による地割れ痕について

本調査にて確認した3条の地震による地割れの発生時期を検討するが、本調査地点から北西約1.2kmほどにある三ツ寺II遺跡(第2図)でも地震による地割れ痕が確認されているので、その調査成果を踏まえて検討する。

三ツ寺II遺跡では、複数箇所北東-南西方向に走る地割れ痕が確認された。竪穴建物遺構との新旧関係を検証した結果、地割れは、A・B・Cの3時期が想定される(第17図1・3)。その方向は地盤の構造によって規定されるのか、要因は不明だが、時期が違えば地割れの方向がほぼ一定である。つまり発生時期は地割れの方向などの痕跡から推定できず、遺構との新旧関係で推定するしか手段がなさそうである。

本調査区の地割れは、北西-南東方向で、三ツ寺II遺跡より90°~100°西に振れている(第17図2)。1.2kmの距離で大きく違いが生じるようである。遺構との関係は、SI-4・SI-5・SI-6・SI-7にかかり、出土遺物から遺構推定時期は、SI-4は7世紀後半、SI-5は7世紀後半、SI-6は11世紀前半、SI-7は8世紀前半、である。セクションに地割れの影響が見られたのは、SI-4・SI-7である。三ツ寺II遺跡と比較しながら地割れ発生時期を検討する。

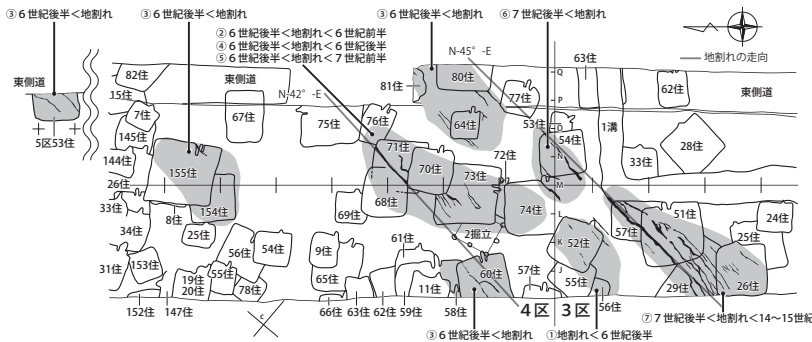
地割れ1: 切り合う遺構はSI-4・SI-5。セクションから「SI-4 < 地割れ < SI-5」となり、地割れは7世紀後半のものとして推定できる(第17図3のD)。

地割れ2: 切り合う遺構はSI-5・SI-6。セクションには地割れの影響がない。「地割れ < SI-5 < SI-6」となる。地割れは7世紀後半以前のもの(第17図3のA・B・D)と推定できる。

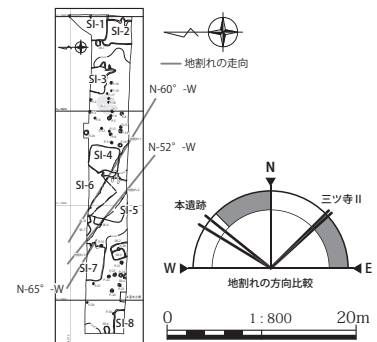
地割れ3: 切り合う遺構はSI-7。セクションに地割れの影響があり、「SI-7 < 地割れ」となる。地割れは8世紀前半以降のもの(第17図3のC)と推定できる。

以上、遺構との新旧関係から検討し、地割れの発生時期を上記のように推測した。ここで三ツ寺II遺跡にみられなかった7世紀後半中(第17図3のD)の時期が推測されたため、調査資料を再検討した。その結果、SI-5のセクションには地割れの影響は見られなかったが、その他で地割れの影響を受けており、新旧関係が「SI-5 < 地割れ」となり、

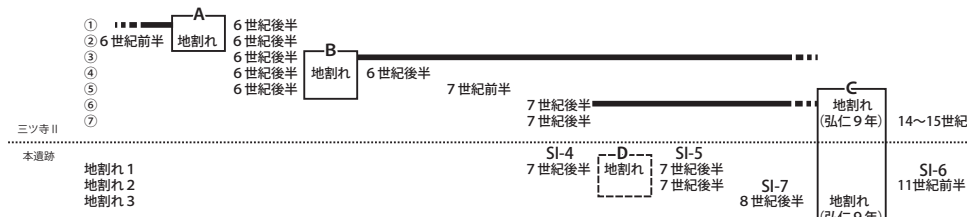
1. 三ツ寺II遺跡の地割れの分布と時期(関1991 2節-1図を加筆)



2. 本遺跡と三ツ寺II遺跡の地割れ方向の比較



3. 三ツ寺II遺跡と本遺跡の地割れの時期



第17図 本遺跡と三ツ寺II遺跡との地割れ痕の比較

地割れは7世紀後半以降という結論に至った。理由の1つは、床面全景写真で床面一部に地割れに伴う土層変化の痕跡が確認できたこと(写真9)。もう1つは、地割れの断層面が掘り方掘削時に削平されていない、壁周溝が地割れで断層状になっていた、ということで地割れ前にSI-5が構築されたとは考えづらい。調査時にSI-5のセクションに地割れの影響がなかったことから先入観で「地割れ<SI-5」と推測して調査を行なったが、地割れの影響は部分的に多寡があり、セクションを設定した部分は影響が少ない部分であったようである。今回は、調査後に確認・検討できる記録を残していたのが幸いした。またSI-5覆土と地割れの関係は調査区南壁面を精査すれば詳しく確認ができた可能性があったが、調査時に気づけなかった。本報告では「SI-5<地割れ」とするが、周辺調査を行うときは再確認・再検討してもらいたい。



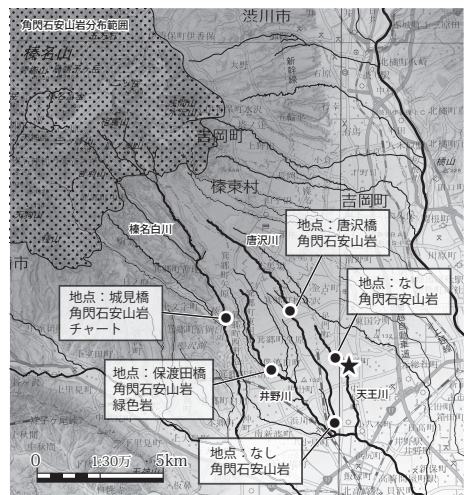
写真9 SI-5床面に残る地割れの影響 白線部分

以上から、本遺跡の地割れは、7世紀後半以降～11世紀前半以前の期間を想定し、「C：弘仁9年(818年)」の地震によるものとする。弘仁9年の地震は、平安時代に編纂された『類聚国史』に記録が残り、「東国で地震があり、山が崩れて谷は埋まり多くの圧死者を出した」と記述されるほどの大災害だったことが文献からうかがえる。現時点まで各地の発掘調査の成果から、県内では本地域・渋川市・赤城山南麓地域から太田市など、埼玉県は行田市までという広大な範囲で該地震の痕跡が確認され、その痕跡状況と範囲から、マグニチュード7.5と阪神・淡路大震災に匹敵する規模の大地震と想定されている。本遺跡の地割れ痕はそのような大地震の痕跡と考える。

2. 遺跡出土の大型石製品石材獲得地について

本遺跡では、大型台石・カマドの袖石が出土している(写真10)が調査区内に礫層など供給源は確認できず、Ⅲ・Ⅳ層上面では長径5cmを越す石すら獲得できる状況ではない。そこで大型石材を獲得するための遺跡周囲の石材環境を河川単位の实地調査で確認した。確認した河川は、榛名白川、井野川、唐沢川、天王川である(第18図)。

結果は調査区で出土した角閃石安山岩は全ての河川で獲得可能と確認した。榛名山自体が火山のため石材構成は火成岩類と想像したが、調査を行うことで確認ができた。また本地域は、多くの古墳が造築され、角閃石安山岩はその葺石にも使われている。河川だけでなく古墳から獲得も可能であろう。今回の確認では、榛名白川ではチャート、井野川では緑色岩が採集できた。現代の土木工事での混入の可能性があるが、榛名山南東麓は火成岩以外の石材も分布しているのかもしれない。



第18図 周辺石材確認調査

大型台石



カマド袖石



1～4：角閃石安山岩
5：角閃石安山岩火山角礫岩
0 1:8 20cm

写真10 遺跡出土大型台石とカマド袖石

最後に、本調査で、奈良・平安時代の集落遺構、弘仁9年の地震痕の確認という考古学・自然災害史の記録として大きな成果を上げることができた。これは志村宣重氏の協力あつての成果である。記してその貢献を讃えたい。

参考文献

国土地理院 2000 『土地条件調査解説書「前橋及び高崎地区」』 国土地理院
 桜岡正信 2013 『弘仁の大地震・赤城南麓の地震被害』『自然災害と考古学』 上毛新聞社
 澤田福宏 2014 『棟高南八幡街道遺跡』(有)高澤考古学研究所
 下司信夫・他 2012 『地域地質研究報告(5万分の1地質図幅)榛名山地域の地質』 独立行政法人産業技術研究所地質調査総合センター
 関 晴彦 1991 『第2節 三ツ寺Ⅱ遺跡の地震跡』『三ツ寺Ⅱ遺跡 本文編』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
 高井佳弘・他 2013 『弘仁の大地震・国府周辺の地震被害』『自然災害と考古学』 上毛新聞社

写真図版



調査区 全景 東から



調査区 全景 西から



調査区空撮 全景 西から



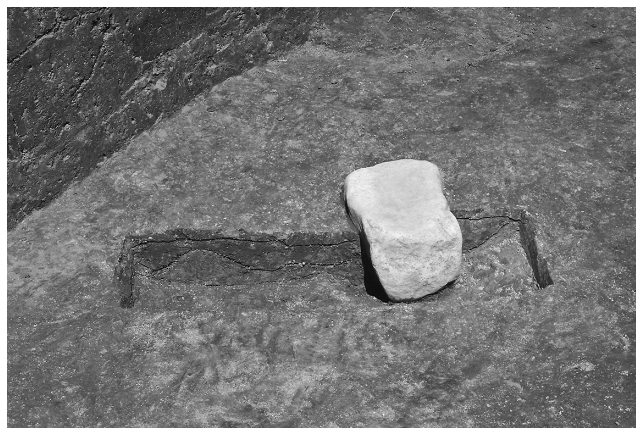
SI-1・SI-2 全景 西から



SI-1 カマド 全景 西から



SI-1 遺物出土状況 北から



SI-1 大型磨石出土状況 南から



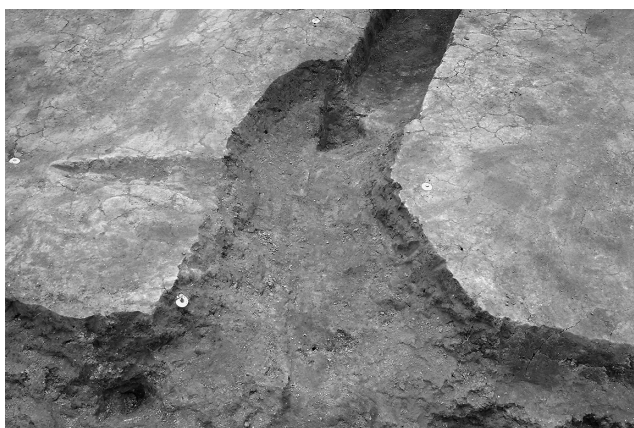
SI-2 カマド 全景 西から



SI-3 全景 西から



SI-3 カマド1 全景 西から



SI-3 カマド2 全景 北から



SI-3 カマド3 全景 西から



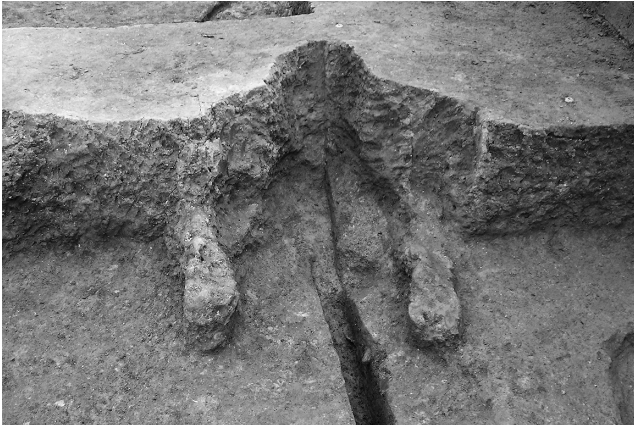
SI-4 全景 東から



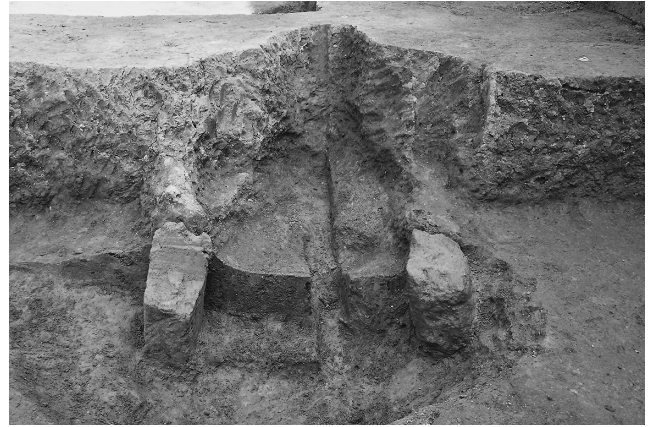
SI-5 全景 西から



SI-5 カマド遺物出土状況 西から



SI-5 カマド 全景 西から



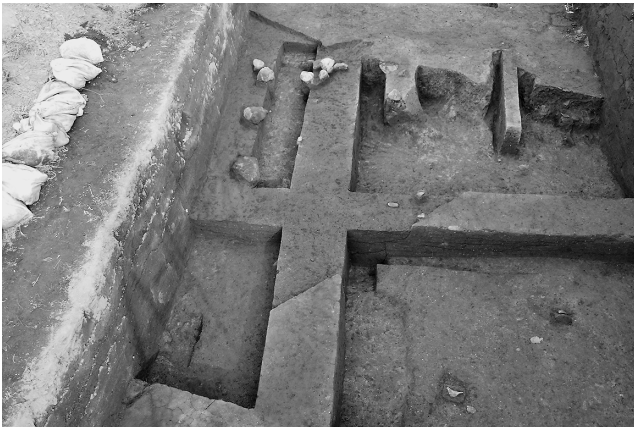
SI-5 カマド掘り方 セクション 西から



SI-5 地割れ付近遺物出土状況 東から



SI-5 掘り方 全景 西から



SI-6 全景 西から



SI-6 カマド周辺 北西から



SI-6 大型石材出土状況 南から



SI-6 カマド 全景 北西から



SI-7 全景 西から



SI-7カマド 全景 西から



SI-7 遺物出土状況 西から



SI-7 掘り方 全景 西から



SI-8 全景 北から



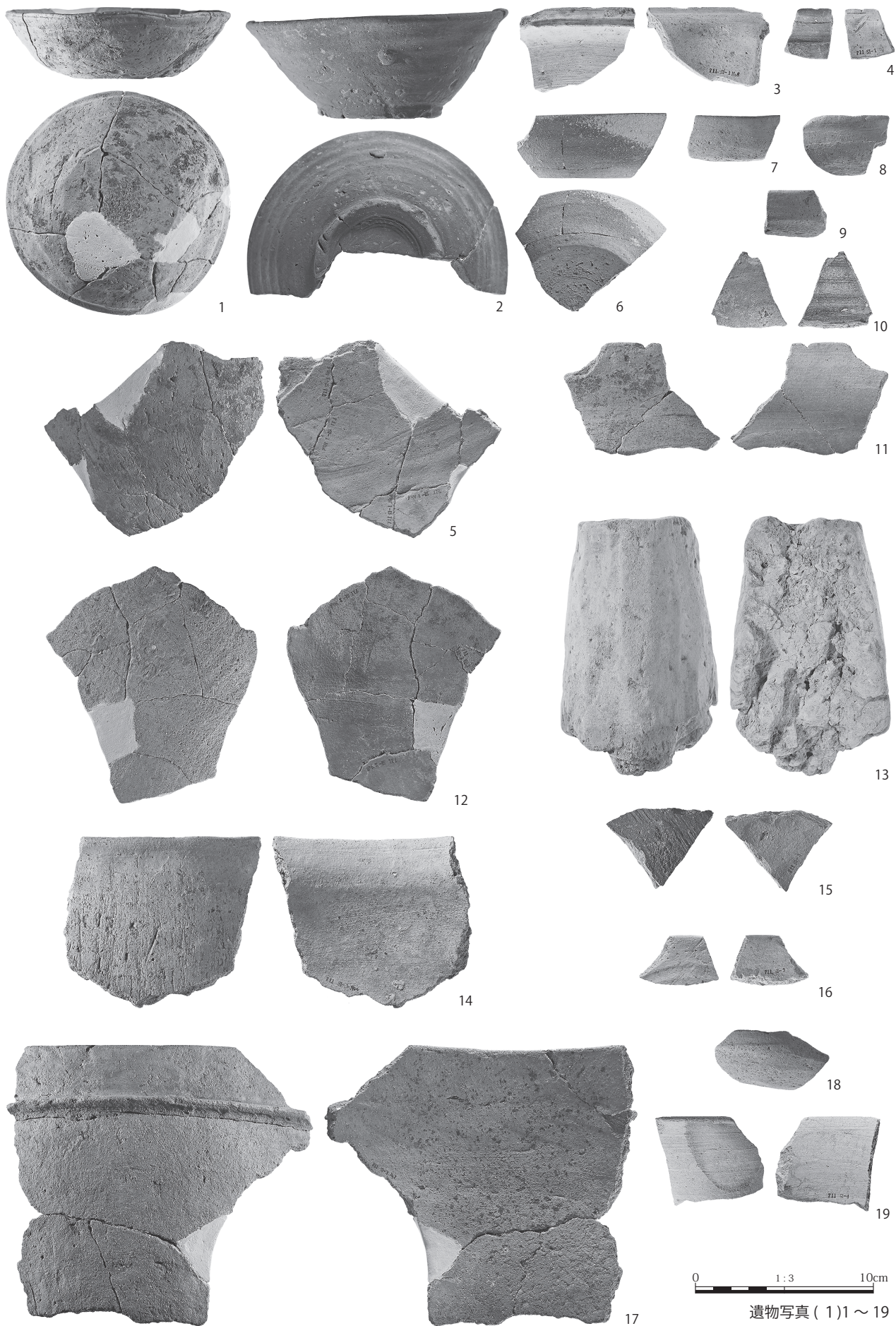
SJ-1・Pit群 全景 西から



SJ-1 全景 西から



SJ-1 遺物出土状況 南北東西から



0 1:3 10cm

遺物写真(1)1~19



0 1:3 10cm



38



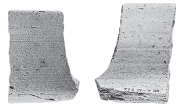
39



41



42



40



43



44



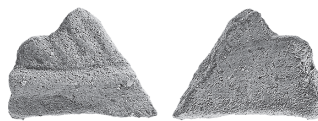
45



46



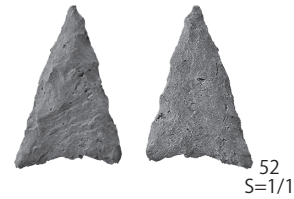
47



48



49



52
S=1/1



50



51



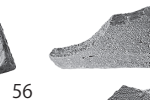
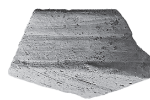
53



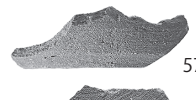
54
S=2/3



55



56



57

0 1:3 10cm

0 2:3 5cm

52 0 1:1 5cm

報告書抄録

ふりがな	むなたかむらきたいせき							
書名	棟高村北遺跡							
副書名	宅地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名	-							
シリーズ番号	第409集							
編著者名	山崎芳春							
編集機関	有限会社歴史考房まほら							
編集機関所在地	〒372-0815 群馬県伊勢崎市東上之宮町1248-3							
発行年月日	西暦2018(平成30)年4月27日							
所収遺跡	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
棟高村北遺跡	高崎市棟高町字村北1928番55	102020	711	36°22'57"	139°00'15"	2017.09.04) 2017.10.25	約177㎡	宅地造成
所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
棟高村北遺跡	集落	奈良 平安	竪穴建物 8軒	土師器坏・甕、須恵器坏・蓋・甕		地震による地割れ跡を確認した。出土土器の年代から、弘仁9年(818年)の地震が原因と推測する。		
			土坑 8基	土師器坏・甕、須恵器坏・蓋・甕				
			ピット 31基	土師器坏・甕、須恵器坏・甕				
	縄文	遺物集中部 1箇所	縄文土器・石器					

高崎市埋蔵文化財調査報告書第 409 集

棟高村北遺跡

平成 30 年 4 月 23 日 印刷

平成 30 年 4 月 27 日 発行

発 行 高崎市教育委員会 文化財保護課

群馬県高崎市高松町 35 番地 1

電話 027 - 231 - 1292

印 刷 朝日印刷工業株式会社

群馬県前橋市元総社町 67 番地

電話 027 - 251 - 1212

